

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する特別チーム
(第1回)議事次第

1. 日 時 平成27年11月12日(木) 10:00～12:00
2. 場 所 文部科学省 東館3階 講堂
3. 議 題 (1) 高等学校の地理歴史科及び公民科に置く新科目の内容構成の考え方について
(2) その他

4. 配付資料

- 資料1 教育課程部会高等学校地歴・公民科科目の在り方に関する特別チーム 委員名簿
- 資料2 初等中等教育分科会教育課程部会運営規則
- 資料3 学習指導要領等について
- 資料4 教育課程企画特別部会 論点整理(冊子)
- 資料5 学校段階等別部会及び教科等別ワーキンググループ等の設置について
- 資料6 次期学習指導要領改訂に関する今後のスケジュール(予定)
- 資料7-1 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(平成20年1月17日中央教育審議会答申)(抜粋)
- 資料7-2 高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)地理歴史科、公民科の科目構成について
- 資料8-1 高等学校における教科・科目の現状・課題と今後の在り方について(検討素案)歴史教育、地理教育、公民教育関連部分(平成27年5月25日教育課程企画特別部会配布資料)(抜粋)
- 資料8-2 教育課程企画特別部会 論点整理(抜粋)
- 資料9-1 教育課程部会高等学校地歴・公民科科目の在り方に関する特別チームにおける検討事項
- 資料9-2 「歴史総合(仮称)」の内容構成の考え方(検討素案)
- 資料9-3 「地理総合(仮称)」の内容構成の考え方(検討素案)
- 資料9-4 授業実践事例集～地理総合(仮称)～
- 資料9-5 「公共(仮称)」の内容構成の考え方(検討素案)

社会・地理歴史・公民WGにおいては、下線の資料のみ配布

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する特別チーム
委員名簿

(敬称略・五十音順)

磯谷 正行	愛知県立岡崎高等学校教頭
井田 仁康	筑波大学大学院人間総合科学研究科教授
一ノ瀬 正樹	東京大学大学院人文社会系研究科教授
井上 寿一	学習院大学長
今村 久美	認定特定非営利活動法人カタリバ代表理事
大石 学	東京学芸大学教授
大竹 文雄	大阪大学社会経済研究所教授
大村 敦志	東京大学大学院法学政治学研究科教授
川上 和久	明治学院大学法学部教授
黒崎 洋介	神奈川県立湘南台高等学校教諭
権丈 英子	亜細亜大学経済学部教授
古城 佳子	東京大学大学院総合文化研究科教授
白石 隆	政策研究大学院大学長
高木 優	神戸大学附属中等教育学校教諭
田中 愛治	早稲田大学政治経済学術院教授
辻中 豊	筑波大学人文社会系教授
土井 真一	京都大学大学院法学研究科教授
中家 健	東京都立小石川中等教育学校主幹教諭
橋本 都	八戸工業大学副学長
羽田 正	東京大学東洋文化研究所教授
諸富 徹	京都大学大学院経済学研究科教授
若江 眞紀	株式会社キャリアリンク代表取締役

高等学校における教科・科目の現状・課題と今後の在り方について(検討素案)
歴史教育、地理教育、公民教育関連部分(抜粋)

歴史教育

歴史科目に関する学習指導要領改訂の経緯等について

昭和35年改訂(告示) 『社会科』うち「日本史」は必履修、「世界史A」「世界史B」いずれかを必履修

- ・「日本史」...日本文化の流れを政治や社会との関係において考察
- ・「世界史A」...世界史の大きな流れを理解 ・「世界史B」...政治、経済、文化の関連について考察

昭和45年改訂(告示) 『社会科』うち「地理A」「地理B」「日本史」「世界史」から2科目必履修

- ・「日本史」...日本文化を時代背景、歴史の流れから考察、国民としての自覚、身近な資料の活用
- ・「世界史」...世界の流れを各文化圏別に学習、世界史における日本の位置、日本人としての自覚

昭和53年改訂(告示) 『社会科』うち「日本史」「世界史」は選択科目

- ・「日本史」...日本の文化と当時の社会との関連について考察、地方文化の学習
- ・「世界史」...現代世界形成の歴史的過程の理解、文化圏学習

平成元年改訂(告示) 「世界史A」「世界史B」から1科目「地理A」「地理B」「日本史A」「日本史B」から1科目必履修

- ・地理歴史教育の専門性・系統性を重視し教科『地理歴史』として独立、国際化の進展
- ・「世界史A」...近現代史、「世界史B」...世界史の大きな流れや枠組みの理解、文化の多様性
- ・「日本史A」...近現代史、「日本史B」...世界史的視野に立って総合的に理解

平成11年改訂(告示) 「世界史A」「世界史B」から1科目「地理A」「地理B」「日本史A」「日本史B」から1科目必履修

- ・「世界史A」...地理的条件と我が国の歴史、「世界史B」...現代世界の諸地域の特質と文化の多様性
- ・「日本史A」...国際関係と地理的条件、「日本史B」...適切な主題を設定して行う学習

平成21年改訂(告示) 「世界史A」「世界史B」から1科目「地理A」「地理B」「日本史A」「日本史B」から1科目必履修

- ・「世界史A」...人類の諸課題を探究、「世界史B」...地理的条件や日本史との関連、歴史的思考力
- ・「日本史A」...主題学習の充実、「日本史B」...主題学習の充実、伝統文化、歴史的思考力を育成

生徒及び教師等の課題

①科目履修の状況

【平成27年度使用教科書採択状況(文科省調べ)】 世界史A・B 1,369,457冊, 日本史A・B 976,189冊, 地理A・B 691,218冊
〔参考値; 高等学校生徒数 3,334,019人(特別支援学校除く)〕

近現代史の学習の定着状況は, 他の指導内容に比べて低い傾向

【平成17年度教育課程実施状況調査】

(例) 世界史B「(5) 地球世界の形成」では, 設定通過率を上回る 31.3%・同程度 31.3%・下回る 37.5%

(例) 日本史B「(6) 両世界大戦期の日本と世界」では, 設定通過率を上回る0.0%・同程度 12.5%・下回る 87.5%

学習活動の工夫に課題

【平成17年度教育課程実施状況調査】～教師質問紙における次の質問に対する回答～

「課題解決的な学習を取り入れた授業を行っていますか。」

「肯定的回答」合計 (世界史B : 12.8%、日本史B 14.0%) , 「否定的回答」合計 (世界史B : 87.0%、日本史B : 80.8%)

「調べたことを発表させる活動を取り入れた授業を行っていますか。」

「肯定的回答」合計 (世界史B : 4.9%、日本史B 7.7%) , 「否定的回答」合計 (世界史B : 95.1%、日本史B : 87.0%)

学会等からの提言

「世界史」か「日本史」かという二者択一ではなく、グローバルな視野の中で、現代世界とその中における日本の過去と現在、そして未来を主体的・総合的に考えることのできる歴史認識を培うことが必要である。

出典：日本学術会議「再び高校歴史教育のあり方について」(2014) 史学委員会、高校歴史教育に関する分科会

歴史教育に関する現状と課題について

H25高等学校日本史及び地理の履修状況(文科省調べ)

		全生徒数	A履修者	B履修者	A・B両方	履修者	非履修者
日本史	普通科	62,396人	23.5%	50.2%	8.8%	64.9%	35.1%
	専門学科	26,159人	41.8%	5.6%	0.0%	47.4%	52.6%
	総合学科	6,712人	45.9%	29.6%	5.8%	69.7%	30.3%
	合計	95,267人	30.1%	36.5%	6.2%	60.4%	39.6%
地 理	普通科	62,396人	24.7%	32.8%	6.6%	50.9%	49.1%
	専門学科	26,159人	58.7%	2.7%	0.0%	61.4%	38.6%
	総合学科	6,712人	30.8%	10.5%	1.6%	39.8%	60.2%
	合計	95,267人	34.4%	23.0%	4.4%	53.0%	47.0%

* 在籍する第3学年生を対象として、入学時から現時までの各科目の履修状況について集計した。

H27年度使用 高等学校用
地理歴史教科用図書需要数

科目	(冊)	(%)	
世界史A	917,624	82.6	123.3
世界史B	451,833	40.7	
日本史A	436,665	39.3	87.8
日本史B	539,524	48.5	
地理A	415,269	37.4	62.2
地理B	275,949	24.8	

* この需要数は平成26年9月中旬までに教育委員会から報告された生徒用及び教師用の必要見込み冊数であり、当該科目の履修者数とは一致しない(文科省調べ)。

* 割合は〔科目の受容数 / 1学年の在学者数の平均〕で算出。

* 平成26年5月1日時点 高等学校在学者数 3,334,019人

H25高等学校地理歴史科の開設状況

(%)

	普通科			専門学科			総合学科
	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	
世界史A	28.0	42.8	13.6	19.1	47.7	28.1	96.0
世界史B	5.7	55.0	59.2	0.8	5.9	7.3	73.7
日本史A	5.5	35.3	18.3	3.6	23.2	29.7	86.2
日本史B	1.0	65.1	76.7	0.3	6.9	9.2	86.5
地理A	15.1	26.0	14.1	31.2	22.5	19.0	85.2
地理B	3.2	46.5	57.7	0.6	5.9	7.3	67.3

(平成25年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査)

H27大学入試センター試験受験状況

科目	受験者数 (人)	受験割合 (%)
世界史A	1,378	0.4
世界史B	84,119	21.5
日本史A	2,410	0.6
日本史B	155,359	39.5
地理A	1,844	0.5
地理B	146,922	37.5
地歴合計	392,032	

* 最大2科目の受験が可能のため、各科目の受験者数の合計は地歴受験者の合計と一致しない。

H17年教育課程実施状況調査報告

世界史や日本史の学習は大切だという回答は増加
 原始・古代などの学習成果は比較的高い
 近現代史の学習の定着状況は、他の指導内容に比べて低い傾向が見られる
 学習内容の重点化と基本的な事柄の理解が十分ではない
 調べたり発表したり課題解決したりする主体的な学習が十分には行われていない
 記述式問題で無解答率の高いものが見られる

H17教育課程実施状況調査高校地理歴史 生徒質問紙調査 / 教師質問紙調査の結果から

調査	質問内容	世界史B		日本史B	
		肯定的な回答	否定的な回答	肯定的な回答	否定的な回答
生徒 質問紙	世界史 / 日本史の勉強は大切だ (下段はH15調査の結果)	53.0%	40.1%	60.3%	33.7%
		51.6%	39.9%	55.0%	36.9%
教師 質問紙	課題解決的な学習を取り入れた授業を行っていますか	12.8%	87.0%	14.0%	80.8%
	調べたことを発表させる活動を取り入れた授業を行っていますか	4.9%	95.1%	7.7%	87.0%
	観察や調査・見学、体験を取り入れた授業を行っていますか	8.3%	86.8%	4.3%	95.5%

歴史教育に関する現状と課題について

内容項目別にみたペーパーテスト調査結果【世界史B】

内 容	問題数	設定通過率を上回る	設定通過率と同程度	設定通過率を下回る
(1) 世界史への扉	5	2 (40.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)
(2) 諸地域世界の形成	13	7 (53.8%)	5 (38.5%)	1 (7.7%)
(3) 諸地域世界の交流と再編	13	6 (46.2%)	4 (30.8%)	3 (23.1%)
(4) 諸地域世界の結合と変容	20	4 (20.0%)	11 (55.0%)	5 (25.0%)
(5) 地球世界の形成	16	5 (31.3%)	5 (31.3%)	6 (37.5%)
合 計	67	24 (35.8%)	26 (38.8%)	17 (25.4%)

内容項目別にみたペーパーテスト調査結果【日本史B】

内 容	問題数	設定通過率を上回る	設定通過率と同程度	設定通過率を下回る
(1) 歴史の考察	8	4 (50.0%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)
(2) 原始・古代の社会・文化と東アジア	10	5 (50.0%)	5 (50.0%)	0 (0.0%)
(3) 中世の社会・文化と東アジア	8	4 (50.0%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)
(4) 近世の社会・文化と国際関係	10	5 (50.0%)	3 (30.0%)	2 (20.0%)
(5) 近代日本の形成とアジア	10	5 (50.0%)	4 (40.0%)	1 (10.0%)
(6) 両世界大戦期の日本と世界	8	0 (0.0%)	1 (12.5%)	7 (87.5%)
(7) 第二次世界大戦後の日本と世界	6	3 (50.0%)	1 (16.7%)	2 (33.3%)
合 計	60	26 (43.3%)	18 (30.0%)	16 (26.7%)

H20中央教育審議会答申（44頁）

「なお，地理歴史に関する総合的な科目の設置については，具体的な教育内容の在り方等について今後更に検討する必要がある。」

国際的な状況の分析について

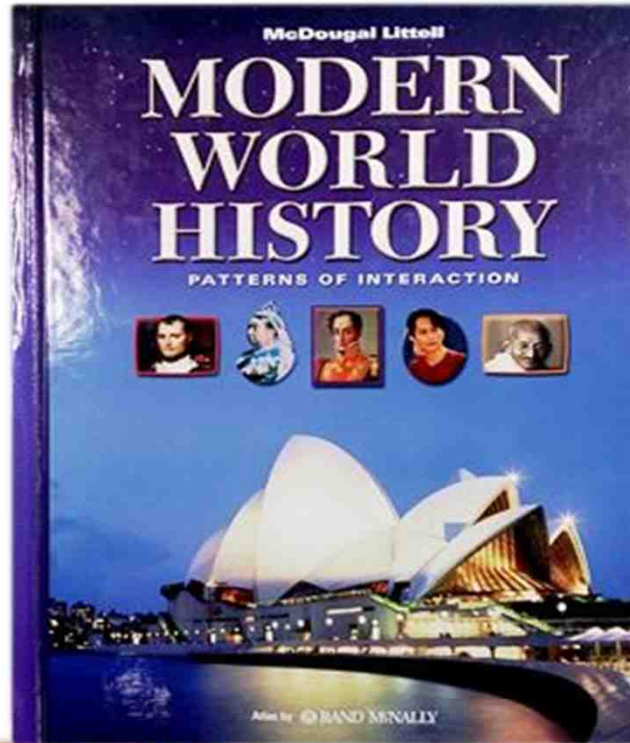
世界の主な国々と日本における歴史教育に関わる教育課程の比較

	日本	合衆国	英国	ドイツ	フランス
～ 参考資料 ～	2009年高等学校学習指導要領地歴	1996年ニューヨーク州 (New York Learning ST)	2003年ナショナル・カリキュラム (K3)	2004年バーデン=ヴュルテンベルク州	2005 / 2006年度までの教育課程
①動向	地歴各科目の関連付けを重視し、諸資料を活用した探究活動を充実	全米教育組織による全米基準を参考に各州が策定	歴史学習の成果を、実社会で役立つ学びへと転移させるために歴史学の手法を導入、時系列をおさえた学習を重視	2015新レアプラン発表予定：コンピテンシーの獲得重視、共通コンピテンシーと校種毎の段階的評価基準の明確化へ	
取り扱う主要な概念、キーワード	歴史的思考力の育成 国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質の育成	6つの概念で構成（文化の伝播、移動・移住、多地域帝国、宗教システム、交易・貿易、衝突）、諸地域世界の相互作用を取り扱う	歴史学の概念（継続と変化、原因と結果、類似、差異と重要性）の理解 概念の活用 探究方法の理解 見方の獲得	疑問のコンピテンシー 判断のコンピテンシー 方法のコンピテンシー	7つの能力・資質・技能を「共通基礎」におく (1)伝説 (2)1つ以上の現代外国語 (3)数学の基礎原理 (4)科学的・人文的文化 (5)情報通信技術 (6)社会的市民の資質 (7)自律と自主的精神への到達
学習活動等の特徴	作業的・体験的な学習活動を取り入れ、言語活動の充実を図る	○多様な時間・空間から、自他の地域を相対化 ○政治経済学習と連携 将来に向けた実社会に役立つ資質の育成 過去の事象の歴史評価を問う	地域・国家・ヨーロッパ・世界レベルでの歴史を扱い、多様性を強調 主題設定し、概観学習・テーマ学習・深化学習を組合せる	教師が問いを発し、諸資料を活用して、探究的に授業を構成 日常的にICTを歴史の授業で活用	知識教授中心の伝統的な教育課程に立脚 歴史は自国史・他国史の区分なし(伝史中心) 地理は初等を除き逆同心円(グローバルな視点導入)
～ 出典 ～	学習指導要領解説等	山田2011, 川上2013, 二井2014	二井2008, 2013/K3	鳥越2013 村瀬2014	国研2007

諸外国の状況を分析すると、グローバル社会に求められる資質・能力に着目し、主要な概念を中心にカリキュラムを構成し、歴史の探究手法を習得させ、歴史的思考力を培うことを重視する傾向があることが見て取れる。

アメリカ合衆国

項 目	ニューヨーク州
<p>法的拘束力のある教育課程基準はない。全米教育組織による全米基準を参考に州が策定</p> <p>○NYスタンダード：「合衆国と州の歴史」「世界史」「地理」「経済」「公民・市民性及び政府」</p> <p>○コアカリキュラム：スタンダードを具体化。歴史は学年7-8,9-10,11の3区分に設定</p>	
歴史の構成 授業の在り方	<p>○7-8学年「合衆国と州史」,9-10学年「世界史と地理」,最終11学年に、政治学習と交えた「合衆国史と政府」</p> <p>写真,絵画,口承資料,伝記などを使い、過去を解釈することを要求</p> <p>調査活動奨励。社会的な議論も生徒に資料・証拠収集・解釈を行うことを要求</p>
育成すべき資質・能力	<p>(New York Learning Standard)1：「合衆国とニューヨークの歴史」、2：「世界史」〔主要な思想、時代、テーマ、発展、転換期〕について理解したことを使用し、多様な観点から、歴史の大観を検討するために必要な知的技能を活用できること、5：〔公民・市民性・政府〕を扱う</p>
特徴	<p>○時系列的配置</p> <p>○多様な時間・空間から、自他の地域を相対的に見つめる</p> <p>○政治経済学習とつなげて将来に向けた実社会に役立つ資質育成へ</p> <p>○過去の事象に対して自分はどうか考えるかという歴史評価を問う項目が多い</p>



PATTERNS OF INTERACTION

- 2. Forming and Supporting Opinions**
Hokusai's print of the wave, shown above, remains very popular today. Why do you think this image appeals to modern people?

▲ Under the Wave of Katsushika Hokusai was one of the most famous of all Japanese prints. It is taken from his well-known series of Mount Fuji. Mount Fuji was considered sacred in the background of this print.

Connect to Today

1. Making Inferences What personal qualities and skills would an artist need to be good at making woodblock prints?
See Skillbuilder Handbook, page B10.

(出典)

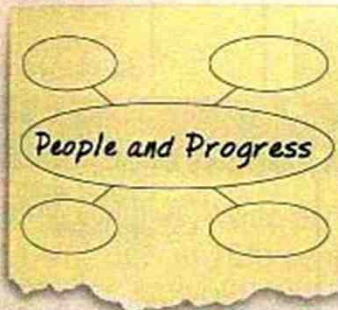
MODERN WORLD HISTORY
McDougal Littell

TERMS & NAMES 1. For each term or name, write a sentence explaining its significance.

- assembly line
- Charles Darwin
- theory of evolution
- radioactivity
- psychology
- mass culture

USING YOUR NOTES

2. Which breakthrough helped people the most? Why?



MAIN IDEAS

3. What effect did the assembly line have on production costs?
4. How did Joseph Lister improve the survival rate of his patients?
5. What effect did the spread of public education have on culture?

CRITICAL THINKING & WRITING

6. **COMPARING AND CONTRASTING** How is the mass culture that rose at the end of the 19th century similar to mass culture today? How is it different? Explain your response.
7. **RECOGNIZING EFFECTS** How did the germ theory change living conditions in Europe and the United States?
8. **ANALYZING CAUSES** What changes led to the rise of mass culture around 1900?
9. **WRITING ACTIVITY** **SCIENCE AND TECHNOLOGY** Write a two-paragraph **expository essay** in which you discuss whether advances in science and technology have had a largely positive or negative impact on society.

Skillbuilder Handbook

Refer to the Skillbuilder Handbook when you need help in answering Main Idea questions or questions in Section Assessments and Chapter Assessments. In addition, the handbook will help you answer questions about maps, charts, and graphs.

SECTION 1: Reading Critically

1.1	Determining Main Ideas	R2
1.2	Following Chronological Order	R3
1.3	Clarifying; Summarizing	R4
1.4	Identifying Problems and Solutions	R5
1.5	Analyzing Causes and Recognizing Effects	R6
1.6	Comparing and Contrasting	R7
1.7	Distinguishing Fact from Opinion	R8

SECTION 2: Higher-Order Critical Thinking

2.1	Categorizing	R9
2.2	Making Inferences	R10
2.3	Drawing Conclusions	R11
2.4	Developing Historical Perspective	R12
2.5	Formulating Historical Questions	R13
2.6	Making Predictions	R14
2.7	Hypothesizing	R15
2.8	Analyzing Motives	R16
2.9	Analyzing Issues	R17
2.10	Analyzing Bias	R18
2.11	Evaluating Decisions and Courses of Action	R19
2.12	Forming and Supporting Opinions	R20
2.13	Synthesizing	R21

SECTION 3: Exploring Evidence: Print, Visual, Technology Sources

3.1	Analyzing Primary and Secondary Sources	R22
3.2	Visual, Audio, and Multimedia Sources	R23
3.3	Using the Internet	R24
3.4	Interpreting Maps	R25
3.5	Interpreting Charts	R27
3.6	Interpreting Graphs	R28
3.7	Analyzing Political Cartoons	R29

SECTION 4: Creating Presentations

4.1	Writing for Social Studies	R30
4.2	Creating a Map	R31
4.3	Creating Charts and Graphs	R32
4.4	Creating and Using a Database	R33
4.5	Creating a Model	R34
4.6	Creating/Interpreting a Research Outline	R35
4.7	Creating Oral Presentations	R36
4.8	Creating Written Presentations	R37

(出典)

MODERN WORLD HISTORY

McDougal Littell

イギリス

項 目	イングランド
1991年NC実施、法的拘束力をもつ、検定基準なし、教科書は自由採択・貸与制	
<p>歴史の構成 授業の在り方</p>	<p>KS 3 (前期中等) まで歴史必修、KS4は選択制 地域・国家・ヨーロッパ・世界のレベルでの歴史を扱い、多様性を強調 グローバル化を受け、地域住民・英国国民・EU市民・世界市民として生きる資質形成のためのシティズンシップの涵養 2008版で「鍵となる概念」「鍵となる方法」に分け具体化 学習する中で「鍵となる概念」を理解 歴史を「流れ」でなく「主題(トピック)」から捉え、概観学習・テーマ学習・深化学習を組合せる タイムライン(時系列)をおさえた学習を重視</p>
<p>育成すべき資質・能力 (一部)</p>	<p>歴史学の概念(継続と変化、原因と結果、類似、差異と重要性)の理解 歴史学の概念の活用(関連付け、比較、傾向分析、問いの作成、自分の説明の構築 *事実の説明や分析も含む) 歴史学の探究方法の理解(過去に対する論点や解釈の違いの由来、証拠の厳密な適用) 歴史学の見方の獲得(習得中の知識を他の文脈に適用して、地方・地域・国家・国際的な歴史の動きと結びつけて理解 * 歴史学習の成果を、実社会で役立つ学びへと転移させるためには歴史学の手法の導入が必要である</p>
<p>特徴</p>	<p>歴史的思考力を明確化、GCSEに連動する教育課程</p>

ドイツ

ベルリン州(B)	項 目	バーデン=ヴュルテンベルク州(BW)
KMK(常設文部大臣会議)が各州共通の共通基準を設定、法的拘束力がある 各州(16州)がCS策定、各州の検定基準あり、教科書は貸与制		
前期中等：前近現代 (時系列的配置) 後期中等：現在の理解、未来への方針、個人の歴史意識の涵養 近現代史：(時系列的配置)	歴史の構成 授業の在り方	前期中等：前近現代通史(時系列的配置) 後期中等(上級G)：近現代史、反省的思考、歴史の解釈
方法コンピテンシー 解釈コンピテンシー 分析コンピテンシー 判断と方向付けのコンピテンシー ナラティブ・コンピテンシー	育成すべき資質・能力	州立アカデミー(LFP)のwebでは、 疑問のコンピテンシー 判断のコンピテンシー 方法のコンピテンシー *ドイツ他州に比較するとこれまでは資質・能力は強調されていなかったが、州は、2015に新方針を打ち出すと表明した。
BW州は2015新レアプラン発表予定：コンピテンシーの獲得重視、共通コンピテンシーと校種毎に段階的に評価基準を明確化する方向へ向かう可能性がある。		

フランス

学習指導要領は省令として告示、詳細な指導指針は訓令
教師向け・一般向け手引き書が刊行、教科の内容・指導方法・評価の明示
学習指導要領に基づき教科書作成、検定基準なし

歴史の構成

〔対応科目〕初等：共に生きる、世界を発見する、歴史・地理、公民、集団生活 前中等：歴史・地理・公民 後中等：歴史・地理、公民・法制・社会
目的と目標、各学年の目標、内容、教授法、評価法、内容関連の資料、参考文献リスト *精粗あり
1-2：簡単な仏史/身近な地域/自分・集団・学校 3-5：原始～古代の仏中心の歴史/世界～ヨーロッパ～仏～世界化時代の仏地理/学校・コミュニティ・仏・ヨーロッパ・仏語圏・世界市民 6-10：原始～現代の仏中心の歴史/世界～ヨーロッパ～仏の地理 11-12：コースにより古代～現代または近現代史

育成すべき資質・能力

7つの能力・資質・技能を「共通基礎」とする
(1)仏語 (2)1つ以上の現代外国語 (3)数学の要基礎原理
(4)科学的・人文的文化 (5)情報通信技術 (6)社会的市民的資質
(7)自律と自主的精神への到達

特徴

市民としての資質育成、社会への参入を保障する教育
知識教授中心の伝統的な教育課程に立脚
歴史は自国史・他国史の区分なし(仏史中心)
地理は初等を除き逆同心円(グローバルな視点導入) (2007国研)

歴史科目の今後の在り方について（検討素案）

現行歴史系A科目

課 題

資質・能力

新科目のイメージ

世界史A

- 1 世界史へのいざない
- 2 世界の一体化と日本
- 3 地球社会と日本

関連付け

日本史A

- 1 私たちの時代と歴史
- 2 近代の日本と世界
- 3 現代の日本と世界

世界史や日本史の学習は大切だと考える生徒は増加。一方、近現代史の学習の定着状況が、他の指導内容に比べて低い傾向。

世界史か日本史かの二者択一ではなく、グローバルな視野で現代世界とそこでの日本の過去と現在、未来を考える歴史認識を培うことが必要との指摘。

調べたことを発表させる活動や課題解決的な学習を取り入れた授業等が十分に行われていない。

自国のこと、グローバルなことを、横断的・相互的にとらえる力

現代社会の形成過程を理解し、その諸課を考察する力

持続可能な社会作りに参画する態度

国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚

自国のこと、グローバルなことが影響しあったり、つながったりする歴史の諸相を学ぶ科目

日本の動向と世界の動きを関連付けて捉える。

現代的な課題につながる近現代史を中心とする

歴史の転換の様子を捉える「継続と変化」、因果関係を捉える「原因と結果」、特色を捉える「類似と差異」などの、歴史の考察を促す概念を重視する

歴史の中に「問い」を見出し、資料に基づいて考察し、互いの考えを交流するなど、歴史の学び方を身に付ける

< 参考 >

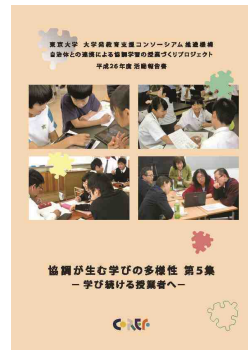
現行中学校社会科の歴史的分野の学習では、我が国の歴史の大きな流れの理解をねらいとしている。
(各時代の特色を捉える学習他)

指導方法の変革を支援する方策について

資料の活用：デジタルアーカイブの活用

- ・国立公文書館デジタルアーカイブ：公文書、重要文化財
- ・国立公文書館、外務省外交史料館、防衛省防衛研究所戦史研究センター
平成26年4月現在、公開数は約190万件・2,810万画像の目録

研修の事例：協同的な取組の推進 自治体との連携による協調学習の授業づくり



大学発教育支援コンソーシアムの活動(東京大学)

過去5年間の取組の蓄積 知識構成型ジグソー法を用いた協調学習の授業づくりに関する成果を発信し全国で共有 小中高向け出張授業 講習会・見学会企画 小中高向け教材等、ウェブリソース

<http://coref.u-tokyo.ac.jp/>

教材の事例：地方・日本・地域・世界を結ぶ教材の開発



12 銀が結ぶ世界と日本

世界	日本	石見・生野銀山
1545 ポトシ銀山開発		
1549	キリスト教伝来	
1557 ポルトガル、マカオに居住権を得る		
1565 明、浙江省で一条鞭法施行		
1567		生野銀山で日本最大の鉱山発見
1568 オランダ独立戦争始まる(～1609)		
ポルトガル人作成の『日本図』に「銀山王国」の記載		
1571 マニラ、スペインのフィリピン経営の拠点となる		
1602 オランダ、東インド会社設立		
1603	江戸幕府成立	
石見 石見銀山、年4千貫(15t)の銀を産出する		
江戸幕府、生野銀山を幕府直轄領とする		
1713 清、盛世通人丁を実施		
1717 広島で地丁銀制実施		
1757 清、対ヨーロッパ貿易を広州に限定		
1868	明治維新	
1874		生野銀山、日本初の官営鉱山となる
		生野・熊鷹間の馬車道新設

※フェルナン・ヴァス＝ド・ラード作

4 兵庫とのつながり ～銀の馬車道～

考えてみよう

- (1) ポトシ銀山の銀は、アカプルコからヨーロッパ、中国に運ばれた。アカプルコからマニラ、マカオを通って中国に運ばれた銀のルートを図に矢印で書いてみよう。
- (2) 馬車道(銀の馬車道)は何のために開かれたのか、考えてみよう。
- (3) 16～17世紀において、銀が世界に与えた影響について考えてみよう。



資料出典一覧

二井正浩「平成20年版学習指導要領と2008年版英国ナショナルカリキュラムにおける歴史学習」
社会科教科教育学会「社会系教科教育学研究」第20号 2008

二井正浩「アメリカ・ニューヨーク州の高等学校社会科カリキュラムにおける地理と歴史の総合」
科学研究費補助金基盤研究(B)(研究代表者:原田智仁)2014年研究成果報告書

山田秀和「小・中・高の歴史教育における段階性-現代社会理解のためのストラテジー-」
全国社会科教育学会「社会科研究」第75号 2011

川上具美「歴史的思考力の育成を図るアメリカ歴史教育改革研究」
九州大学学術リポジトリ 2013

History programmes of study: key stage3 National curriculum in England
Department for Education 2013
([https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/239075/SECON
DARY_national_curriculum_-_History.pdf](https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/239075/SECON-DARY_national_curriculum_-_History.pdf) 20150522確認)

鳥越泰彦「ドイツにおける後期中等歴史教育
-バーデン=ヴェルテンベルク州一般教育学校の場合-」
青山学院大学教育学会紀要「教育研究」第57号 2013

国立教育政策研究所:教科等の構成と開発に関する調査研究・研究成果報告書
「諸外国の教育課程(2)」2007年

ベルリン市政府教育・学術・研究省
「基本カリキュラムの概要:ベルリン後期中等教育課程における授業のテーマと内容概観」 2014

村瀬正幸「教科固有の資質や能力の育成を目指すドイツ中等歴史の教育課程の研究」
科学研究費助成事業(挑戦的萌芽研究)2014実地調査をまとめたもの

地理教育

地理科目に関する学習指導要領改訂の経緯等について

昭和35年改訂（告示） 『社会』うち「地理A」「地理B」いずれかを必履修

- ・ 人間活動の理知的考察を中心、自然の取り扱いの明確化、世界の現勢を地域に即して理解
- ・ 「地理A」...基本的事項を経済との関連に留意して扱う、
- ・ 「地理B」...基本的事項をやや深く扱う

昭和45年改訂（告示） 『社会』うち「地理A」「地理B」「日本史」「世界史」から2科目必履修

- ・ 日本や世界の動向を地理的に考察、世界における我が国の地位の認識、国民としての自覚
- ・ 「地理A」...系統地理中心
- ・ 「地理B」...世界地誌中心

昭和53年改訂（告示） 『社会』うち「地理」は選択科目

- ・ 現代世界についての地理的な認識を深める
- ・ 「地理」...系統地理中心の「地理A」と世界の地域的な学習を中心とする「地理B」を統合

平成元年改訂（告示） 「地理A」「地理B」「日本史A」「日本史B」から1科目必履修

- ・ 地理歴史教育の専門性・系統性を重視し、教科『地理歴史』として独立
- ・ 「地理A」...生活や文化に関わる地域的特色と諸地域の共通課題に重点
- ・ 「地理B」...地理的諸条件と人間の営みを地域的観点からとらえ、世界と日本を比較・関連的に学習

平成11年改訂（告示） 「地理A」「地理B」「日本史A」「日本史B」から1科目必履修

- ・ 「地理A」...地図の読図描図や地域調査など作業的・体験的な学習を重視、歴史的背景に留意し追究
- ・ 「地理B」...地理的な見方考え方を重視、現代世界の地理的認識と関連付けて体系的に学習

平成21年改訂（告示） 「地理A」「地理B」「日本史A」「日本史B」から1科目必履修

- ・ 「地理A」...地理的技能の習得、現代世界の諸課題や持続可能な開発等を歴史的背景を踏まえ考察
- ・ 「地理B」...地理的事象の分布や要因を考察、知識・概念や地理的技能を活用し考察

生徒等の課題

①最低限の地理的知識をもたずに高校を卒業する生徒の増加

【2014年度使用教科書採択状況】 世界史A・B 1,382,886冊, 日本史A・B 983,408冊, 地理A・B 691,746冊
〔参考値; 高等学校生徒数 3,532,876人(特別支援学校除く)〕
【日本地理学会による大学生地理認識調査(2014)】～各国名について地図中からその位置を適切に選択した者の割合～
フィンランド52.4%(履修者66.7%, 格差14.3%), スイス46.1%(格差15.4%), ベトナム43.5%(格差15.4%)

地球環境の危機や防災に関する教育の必要性

地理的思考力や地理情報システム(GIS)など地図・地理空間情報を利活用できるスキルの育成が重要

海外や異文化一般への関心の後退〔同(2007)〕

〔以上, 日本学術会議(2011)〕

教師等の課題

学習活動の工夫に課題〔同(2007)〕

【平成17年度教育課程実施状況調査】～教師質問紙における次の質問に対する回答～
「観察や調査・見学, 体験を積極的に取り入れた授業を行っていますか。」
行っている方だ(1.5%), どちらかといえば行っている方だ(5.0%), 「否定的回答」合計(87.8%)
「博物館や郷土資料館等の地域にある施設を活用した授業を行っていますか。」
行っている方だ(0.0%), どちらかといえば行っている方だ(0.6%), 「否定的回答」合計(94.2%)

国際的な状況の分析について

各国の地理教育に大きな影響を与える「国際地理学連合」の動向

「国際地理学連合(IGU)」とは？

1922年に創設した、世界各国が加盟している地理学の代表的な国際組織。日本では、日本学術会議のIGU分科会がIGU日本委員会を兼ねている。4年に一度、大会が開かれ、2013年8月の京都大会では、4日間で1,256の発表が行われ、国内688人、海外743人(61か国・地域)が参加した。
出典：大会HPなど

「地理教育国際憲章」の制定

1992年に、組織内の地理教育委員会(CGЕ)で起草されIGUとして制定された、地理教育振興のためのガイドライン。この中で、地理学研究の中心的概念を、「位置と分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」と規定した。また、すでにこの中で「SDが地理教育にとって重要な概念となることを明記している」。
出典：中山修一「地理教育国際憲章」(1993)、同「持続発展教育(ESD)としての地理教育」(2012)

「ルツェルン宣言」

2007年、スイスのルツェルンにおいてIGU CGEが行ったESDとしての地理教育推進に関わる宣言(正式名：「持続可能な開発のための地理教育に関するルツェルン宣言」)。

この宣言では、ESDとしての地理教育の最終目標を、「持続可能な社会の構築をめざす価値観・意識の変革とそのために行動する能力を備えた人間の育成であり、ESDとしての地理教育は社会変革を指向するものである」とした。

また、宣言は、①ESDへの地理学の貢献、②SDのための地理教育カリキュラム開発の基準、③地理学におけるESDでの情報通信技術(ICT)の重要性、の3章から構成されており、この中で「持続可能な開発を実行する地理的能力」を明示。

出典：中山修一(2012)

「持続可能な開発を実行する地理的能力」

次のことに関する地理的知識と地理的理解

①地球の主な自然のシステム、地球の社会・経済システム、空間概念

地理的技能

コミュニケーション、思考、ローカルから世界までの範囲で地理的なトピックスを探究する実践的な社会的スキルを用いること
態度と価値観

「世界人権宣言」に基づくローカル、地域、国家のおよび国際的な課題と問題の解決を模索することに対する献身的努力

出典：大西 宏治「持続可能な開発のための地理教育に関するルツェルン宣言(全訳)」(2008)

国際的な状況の分析について

世界の主な国々と日本における地理教育に関わる教育課程の比較

	日本	合衆国	英国	ドイツ	フランス	中国	韓国
～ 参照資料 ～	高等学校学習指導要領地理(2009)	地理ナショナルスタンダード(1994)	ナショナル・カリキュラム(2007)	地理教育スタンダード(2006)	IBディプロマプログラム地理(2014)	地理課程標準(2001)	国家教育課程(2009)
①資質・能力	地理的認識 地理的な見方や考え方 地理的な技能 国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質	概念的知識 地理的技能 地理の見方(空間的見方・生態的見方)	汎用的な方法知を重視(2014年版では教科固有の系統的知識も重視) ESDの核となる教科という位置付け、市民的資質形成	ESDの影響も含まれるが、行動志向、価値観の育成、判断力の育成、判断力の発達、コミュニケーション、自律的学習が重視されるようになってきている。	国際理解を深め地球の課題に関する関心、自らの責任の認識、世界市民としての共同責任を認識、個人的コミットメントをもつための価値観や態度	知識と技能の伝授を強調し、能力育成、情感・態度・価値観などの面の教育軽視から転換し、生徒の全人的な発展を重視	地図などを含む多様な地理情報の活用とともに、地域の問題解決能力や空間情報処理能力を向上するための活動が重視
取り扱う 主要な概念、 キーワード	地理的な認識、空間的な規則性・傾向性、地理的事象の成立背景や要因、一般的共通性と地方的特殊性、地域の関係性、地域の変容	空間的認識 場所と地域 自然的システム 人文的システム 環境と社会 地理の応用	場所 空間 スケール 場所の相互依存 自然・人文的プロセス 環境の相互作用と持続可能な開発 文化理解と多様性	専門科学 空間リエンテーション 知識獲得/方法 コミュニケーション 評価/評定 行動	過渡期にある人口 富と開発の格差 環境の質と持続可能性のパターン 資源消費のパターン フィールドワーク	中国の初等・中等教育においては、地球規模における環境との調和及び持続的発展が、学習内容の中心となっている。	世界化と地域理解、世界の多様な自然環境、世界の多様な地域の文化的多様性、変化する世界の人口と都市、経済活動の世界化、葛藤と共存の世界
学習活動 等の特徴	地図の読図や作図、景観写真等の読み取り、地理情報システムなどを活用した地理情報の収集・分析、地図を活用した事象説明・解釈・論述・討論	映像教材等が主流となり、地図指導とともにICT活用が活発化している。また、近年はより幅広い環境教育を目指してESDを取り入れる動きがスタートした。	キープロセス ・地理的探究 ・フィールドワークと野外学習 ・地図や画像の読み取り ・地理的コミュニケーション	最近では問題解決学習の手法を取り入れ、社会での実践的な行動力育成。野外調査等の方法の学習、気象データ等の分析や作成、GIS等のコンピュータ利用なども内容化	主要な地球の課題について検討し、様々な規模で実例や詳細なケーススタディを考察(問題提起、ケーススタディ、地図・基礎知識の獲得、高度なケーススタディ)	学習結果ばかりでなく学習過程と学習方法を重視しており、特に体験を通して学ぶことの有効性を強調	学校におけるE-learningが進んでおり、地理教育においてもインターネットの活用が重視され、日常生活の中でのICT活用につながるような方法が講じられている。
～ 出典 ～	学習指導要領解説等	和田文雄(2000) 田部俊充(2010, 2012等)	志村喬(2006, 2012等) 森田康夫(2014)	山本隆太(2012, 等) 大谷誠一(2006)	教育課程課(2014) 荒又美陽(2007)	諏訪哲郎(2008) 王鵬飛(2006)	金玆辰(2012等)

諸外国の状況を分析すると、持続可能な社会を形成するための資質・能力の育成を目指し、主要な概念を中心にカリキュラムを構成し、地理的探究に基づく学習や、地理的技能としてのICT活用を重視していることなどが見て取れる。

国際的な状況の分析について

イギリス教科書に見られる アクティブラーニング

防災

洪水の危険性を減少させるにはどうしたらいいか

洪水の危険性を減少させるには多くの様々な方法があります。下に示した方法は、洪水防止対策案といえます。それは、これらの方法が洪水の発生をとめることを目的としているからです。

現在、多くの人々は、川や洪水の完全な制御は不可能であると思っています。洪水は自然的なことであるから発生するに任せるほかはない、と言われているのです。しかし、長期的に見れば、洪水防止対策案は、対洪水費用を抑制できます。また、水質の改善もできますし、野生動物保護にも役立つの

3.7 パート2 GISで決断する。

GIS

この見開きでは、どこに作家場を移転するか決断するためにGISを活用します。
サッカー場



持続可能な開発

バイパスはどこを通るべきか？

ある場所が車で込み過ぎた（混雑した）場合、交通量をいくぶん減らす目的で、その場所の周りに道を作ることがあります。混雑した場所を避けるために建設される道路をバイパスといいます。なかにはとても長いバイパスもあります。ロンドンをぐるっと回るM25は160km（100マイル）以上もの距離があります。しかしほとんどのバイパスはこれよりはるかに短いものです。

バイパスを建設するのは簡単なことではありません。お金が必要ですし、適切なルートを計画したり、そのルートの影響を被る人々の間で何度も議論をせねばなりません。これらはどれも大変難しく、長い時間がかかります。

考慮すべき点	Red route	Blue route	Yellow route
最短ルートである			
全ての既成市街地を回避する			
最長の農場を回避する			
険しい坂を回避する			
産地帯を回避する			
景勝地帯を回避する			
樹林草原を回避する			
必要とする橋が最も少ない			
伐採しなければならない木々が最も少ない			
工場用地に役立つ			
Total			

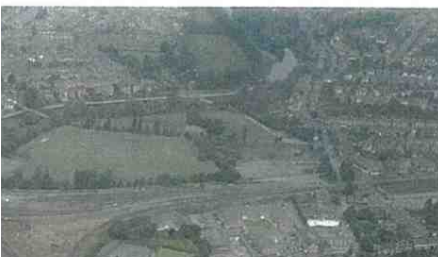
作業

1 図Bをよく見てください。これはキータウンという想像上の場所とその周りの田園地帯を示すものです。

キータウンは、かつては狭い通りと魅力的な中央広場のある、こじんまりとした静かな村でした。しかし今は、賑やかで混雑しており、もはやこの場所を通る全ての交通に対処することができなくなっています。そのため、町の中心部を通る交通量を減らすために、バイパスを建設することが決まりました。

イギリス中学校前期(中学1～3年相当)
(Key Geography Foundations)

設的には、「黄色ルート」が選択される。そのわけは、このルートは現在使われない鉄道路線を利用してきて、しかも、環



イギリス中学校後期(高校1,2年相当)
(GCSE Geography OCRB)



イギリス教科書中学校前期
(Key Geography Foundations) 5

地理科目の今後の在り方について（検討素案）

現行地理A科目

課 題

資質・能力

新科目のイメージ

地理A

(1)現代世界の
特色と諸課題の
地理的考察

(2)生活圏の
諸課題の地理的考察

①地理は選択必修で、
選択者も世界史、日本
史に比べて少ないこと
から、最低限の地理的
技能をもたず高校を卒
業する者が多い。

地球環境の危機や防
災に関する教育の必要
性、地理的思考力や地
理情報システム(GIS)な
どを利活用できるスキ
ルの育成等が重要であ
るとの指摘。

観察や調査・見学、体
験を取り入れた授業等
が十分に行われていな
い。

地理的な技能
「実践的な社会的スキル
としてのGIS活用」

地理的知識と地理的理解
「地球規模(グローバル)の
自然システム、
社会・経済システム
の知識と理解」

地理的な見方や考え方
「空間概念を捉える力」

態度と価値観
「地域、国家的及び国際的な
課題解決を模索する
献身的努力」

(「ルツェルン宣言における
『持続可能な開発を実行
する地理的能力』による」)

持続可能な社会づくりに必須となる
地球規模の諸課題や、地域課題を
解決する力を育む科目

地図や地理情報システムなどの汎用的な
地理的技能の育成

位置と分布、場所、地域などの概念を捉え
る地理的な見方や考え方の育成

グローバルな視点からの地域理解と課題
解決的な学習の展開

持続可能な社会づくりに関わる資質・能力
を育み、以降の地理学習等の基盤を形成

< 参考 >

- ・ 中学校の地理的分野において充実した地誌学習により獲得した知識等を活用し、国内外の諸課題等を主題的に扱う。
- ・ 本科目履修後の地理歴史科の科目や他教科において活用できる、GISをはじめとする地理的な技能や、世界のグローバル化、持続可能な社会づくりといった考え方を身に付けさせる。

指導方法の変革を支援する方策について

GIS

国土交通省

「小・中・高等学校教員向け 地理情報システム (GIS) 研修プログラム」

...WEB上に、研修企画者向けの手引き、研修資料、教員向けの手引き、活用事例、関連Web サイト等の情報源の紹介
「『G空間EXPO』におけるエデュケーションプログラム」など

国土地理院

「地理院地図、電子地形図、航空写真の提供」「国土地理院『出前講座』」など

日本地図センター

「地理院地図、電子地形図、航空写真の提供」「講師派遣」など

など

グローバル

外務省

「開発教育・国際理解教育ハンドブック」・「開発教育ハンドブック ミレニアム開発目標(MDGs)」
・基礎データとしての『国・地域』資料 など...いずれもWEB上などで閲覧可能

国際協力機構 (JICA)

「JICA地球ひろば」...展示物の見学やその貸出し等も可能

それ以外にも「国際協力出前講座」「国際理解教育セミナー・研修」「教師海外研修」などの講座や、
「国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」「グローバル教育コンクール」といったイベント など

防災

本省

「学校防災のための参考資料『生きる力』を育む防災教育の展開」平成25年3月発行
研究開発局地震・防災研究課「地震調査研究本部」による「防災教育支援推進ポータル」

国土交通省

「ハザードマップポータルサイト」全国のハザードマップを検索・閲覧

防災科学技術研究所 (NIED)

一般ページに自然災害の基礎知識を学ぶコンテンツと学生向けコンテンツを用意

など

ESD

本省(1ネスコ国内委員会)

「ESDポータルサイト」の解説やホームページ上での様々な情報提供、ESDストーリーブック
『ESD QUEST』などのコンテンツ紹介

国立教育政策研究所

「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究(中間報告書・最終報告書)」
パンフレット「ESDの学習指導要領を構想し展開するために必要な枠組み」

など

資料出典一覧

- ・日本学術会議(2007)... 対外報告「現代的課題を切り拓く地理教育」
- ・ 同 (2011)... 提言「新しい高校地理・歴史教育の創造-グローバル化に対応した時空間認識の育成-」
- ・中山修一 (1993)〔元広島大〕...「地理教育国際憲章」地理科学会『地理科学』vol.48 no.2
- ・ (2012) ...「持続発展教育(ESD)としての地理教育」日本地理学会『E-journal GEO』vol.7(1)
- ・大西宏治 (2008)〔富山大〕...「持続可能な開発のための地理教育に関するルツェルン宣言(全訳)」
日本地理教育学会『新地理』vol.55 3・4号
- ・和田文雄(2000)〔広大附属中高〕...「高校地理学習内容の再検討に向けて-「地理ナショナルスタンダード」を手がかりとして-」
広島地理教育懇話会『地理教育フォーラム2000年報告』
- ・田部允俊(2010)〔日本女子大〕...「米国地理教育におけるESDの現在」古今書院『地理』vol.55-9
- ・ (2012) ...「アメリカ合衆国の最新ICT地理プレミアム授業」明治図書『社会科教育』H24.11月号
- ・志村 喬(2006)〔上越教育大〕...「イギリスの地理教科書」帝国書院『地理・地図資料』2006年4月号
- ・ (2012) ...「現代イギリス地理教育の潮流と展望」人文地理学会『大会研究発表要旨』
- ・森田康夫(2014)〔元国土技術研究センター主席研究員〕
...「イギリスの中学校地理教科書と国土教育」国土技術研究センター『JICE REPORT』vol.26
- ・山本隆太(2012)〔早稲田大〕...「ドイツの地理教育における『システム』論」早稲田大学大学院『教育学研究科紀要』別冊20号-1
- ・大谷誠一(2006)〔平塚市立浜岳中〕...「ドイツの地理教育」日本地理教育学会『地理教育用語技能事典』
- ・荒又美陽(2007)〔恵泉女学園大〕...「フランスの地理教科書」帝国書院『地理・地図資料』2007年2月号
- ・諏訪哲郎(2008)〔学習院大〕...「日中韓の義務教育段階における世界地理教育」東洋文化研究第10巻
- ・王 鵬飛(2006)〔筑波大〕...「中国の地理教育」日本地理教育学会『地理教育用語技能事典』
- ・金 玗辰(2012)〔北海道教育大〕...「地理教育の世界動向」日本地理学会『E-journal GEO』vol.7(1)
- ・「持続可能な開発: バイパスはどこを通るべきか」...オックスフォード大学出版局『キー・シ・オグラフィー基礎』(2001)仮訳
- ・「GIS: GISで決断する」...オックスフォード大学出版局『GCSE地理OCR B』(2010)仮訳
- ・「防災: 洪水の危険性を減少させるにはどうしたらいいか」...オックスフォード大学出版局『キー・シ・オグラフィー基礎』(2001)仮訳

公民教育

公民系科目に関する学習指導要領改訂の経緯等について

昭和35年改訂（告示） 「倫理・社会」及び「政治・経済」必履修

- ・昭和30年版の「一般社会」及び「時事問題」の内容を再構成し、新たな科目として設置
- ・「倫理・社会」…小・中学校の道德教育の基本理念たる人間尊重の精神を継承。人生観、世界観の確立に資する
- ・「政治・経済」…日本の政治・経済並びに国際政治・国際経済に対する客観的に正しい理解を得させることを基本

昭和45年改訂（告示） 「倫理・社会」及び「政治・経済」必履修

- ・社会事象等に対する広く深い理解と公正な判断力を涵養し、民主的な国家及び社会の発展に努める態度を一層育成
- ・「倫理・社会」…倫理的価値に関する理解力や倫理的判断力を養う
- ・「政治・経済」…良識ある公民に必要な政治・経済に関する教養の基礎を高める

昭和53年改訂（告示） 「現代社会」必履修

- ・「現代社会」…社会と人間に関する基本的な問題についての理解を一層深め、現代社会に対する判断力の基礎と人間の生き方について自ら考える力を養うために、新たな科目として設置

平成元年改訂（告示） 「現代社会」または「倫理」「政治・経済」を選択必履修

- ・民主主義の本質に関する理解、現代社会の基本的な問題についての客観的理解、現代を生きる人間としての在り方生き方についての自覚を育てる教科「公民科」の設置
- ・「現代社会」…社会と人間に関する基本的な問題に関する学習とともに、人間としての在り方生き方を考える力を育てる学習をさせるように内容を構成

平成11年改訂（告示） 「現代社会」または「倫理」「政治・経済」を選択必履修

- ・「現代社会」…内容の厳選（4単位科目から2単位科目へ）。多様な角度から現代社会を捉え、倫理、社会、文化、政治、経済の領域に関わる現代社会の諸課題を取り上げて考察

平成21年改訂（告示） 「現代社会」または「倫理」「政治・経済」を選択必履修

- ・「現代社会」…倫理、社会、文化、政治、法、経済に関わる現代社会の諸課題を取り上げて、人間としての在り方生き方についての学習や、議論を通して自分の考えをまとめたり、説明したり、論述したりするなど課題追究的な学習を一層重視

公民教育に関する現状について

高校生・若者の意識や実態

①積極的に社会参加する意欲が国際的に見て低い

他人に迷惑をかけてはならないという意識が高い反面、自分の力で世の中を変えられていると考えている若者が、諸外国に比べて少ない。(青少年の意識調査)

衆議院選挙の投票率では、20代の投票率は60代の半分以上。

理念や概念の理解、情報活用能力が十分身についていない

【平成17年度教育課程実施状況調査(倫理、政治・経済)】

・政治や経済、現代社会の諸課題について、基礎的な理念や概念を問う問題への正答率が低い。特に記述式の問題の無答率が高い。

・先哲の基本的な考え方を手掛かりとして自分自身の考え方や自分の体験と関連付けて自己の生きる課題として考えさせるような問題の正答率が低い。

・有用な情報を主体的に選択して活用したり、課題を考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現したりする力が十分に身に付いていない。

政治や経済の仕組み、働く意義等を学ぶことへの関心は高い

・政治・経済についての学習が大事だと思っている生徒の割合は国語や外国語に次いで高い。

・若年層の就労者の多くは、働く上での権利・義務や働くことの意義を学校教育でもっと学ぶことが大切だと考えている。(連合の意識調査)

公民科教育の現状

・「課題解決的な学習を取り入れた授業を行っている」「調べたことを発表させる活動を取り入れた授業を行っている」と考えている教員は少ない。【平成17年度教育課程実施状況調査(倫理、政治・経済)教員質問紙より】

規範等に関する青少年の意識

日本の若者は、他人に迷惑をかけてはならないという意識は相対的に高いが、積極的に困っている人を助けることの意識やボランティア活動への興味はやや低いというデータがある。

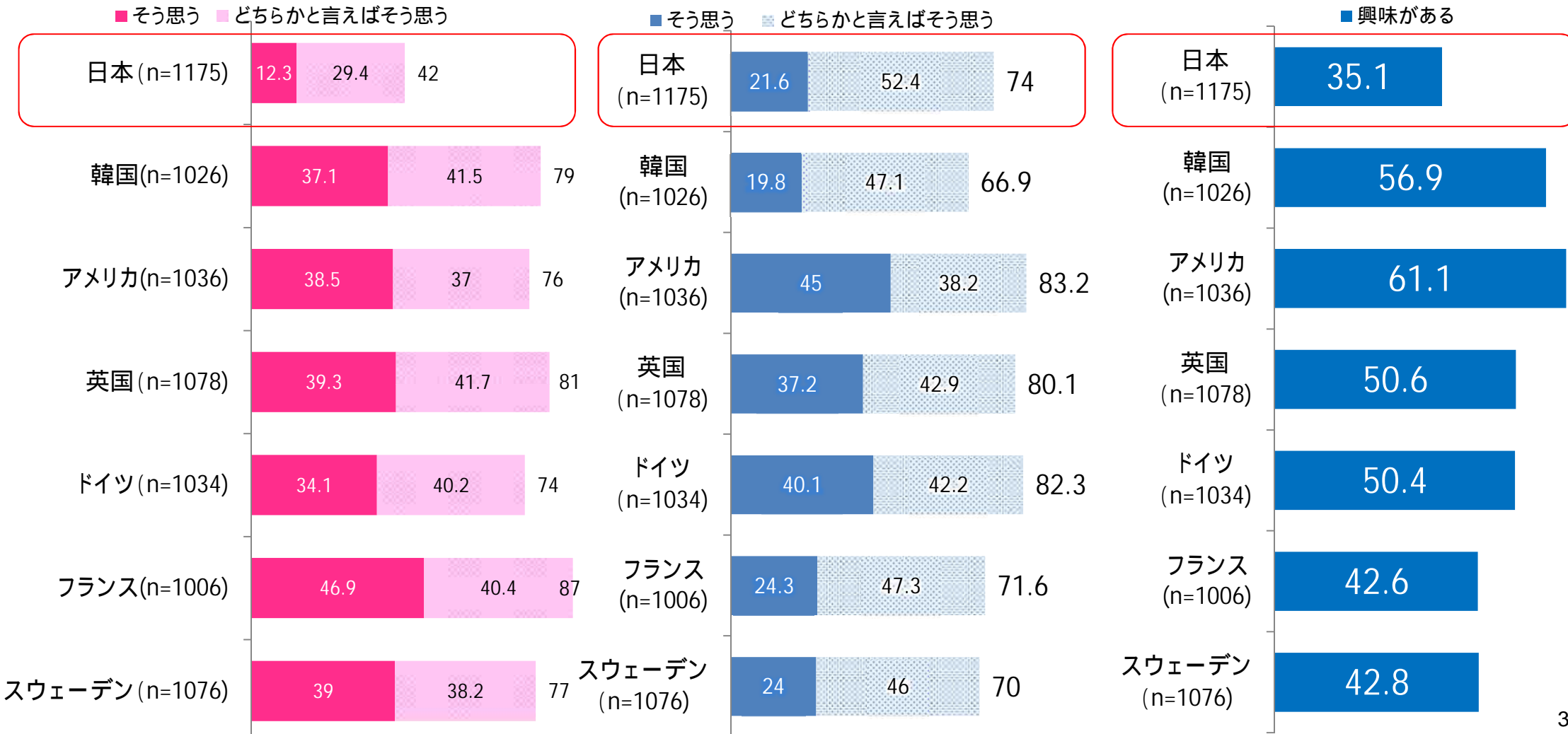
(出典) 内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」(平成25年度実施)より

各国13歳から29歳までの男女が対象。

「他人に迷惑をかけなければ、
何をしようと個人の自由だ」
(そう思う、どちらかと言えばそう思うの合計%)

「困っている人を見たら、
頼まれなくても助けてあげるべきだ」
(そう思う、どちらかと言えばそう思うの合計%)

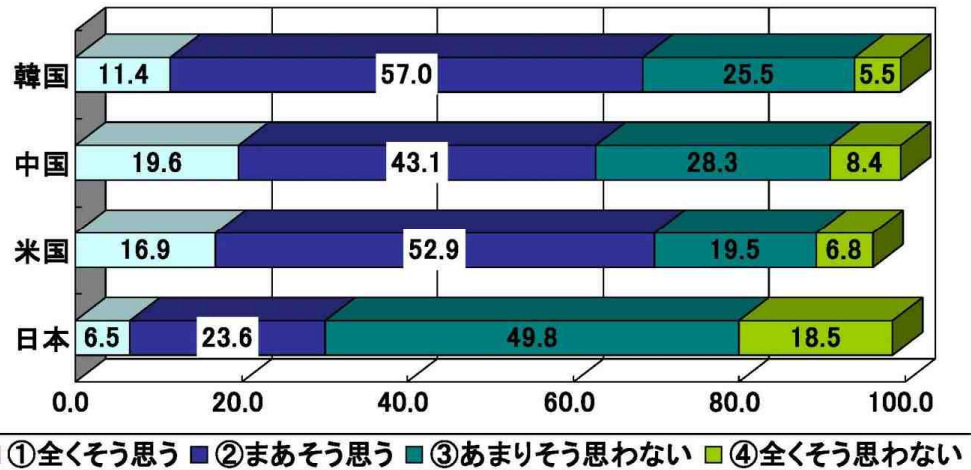
ボランティア活動に興味があるか
(「ある」という回答の割合%)



公民教育に関する現状について

8. 学校や社会への参加意欲

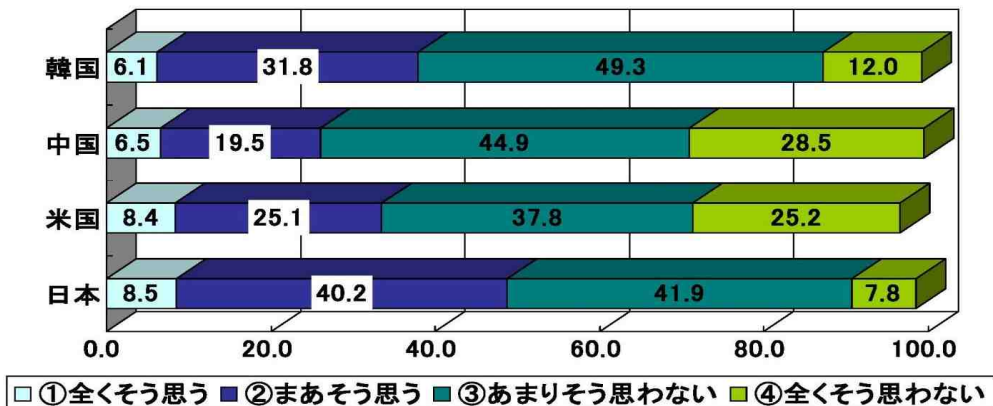
あなたは自分自身をどう思うか(私の参加により、変えてほしい
社会現象が少し変えられるかもしれない)



(出典)「中学生・高校生の生活と意識－日本・アメリカ・中国・韓国の比較－(2009年2月)」
財団法人 一ツ橋文芸教育振興協会、財団法人 日本青少年研究所

8. 学校や社会への参加意欲

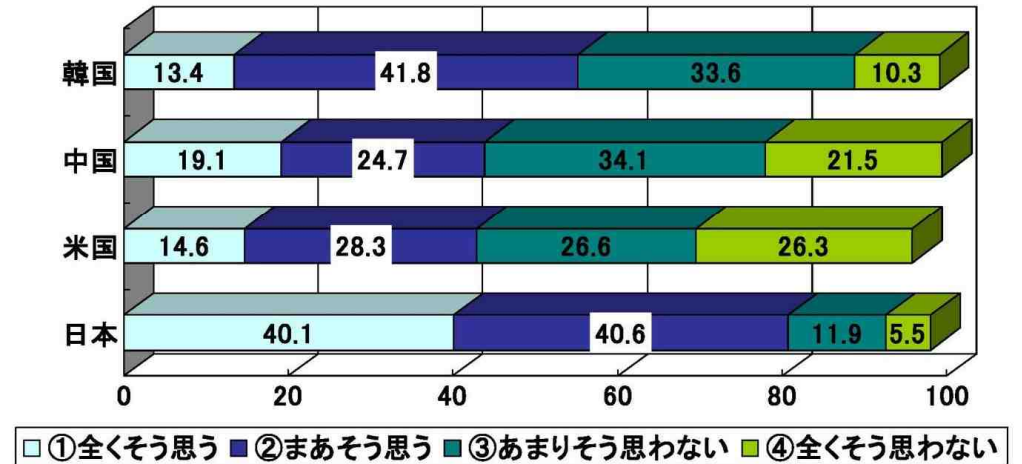
あなたは自分自身をどう思うか
(社会のことはとても複雑で、私が関与したくない)



(出典)「中学生・高校生の生活と意識－日本・アメリカ・中国・韓国の比較－(2009年2月)」
財団法人 一ツ橋文芸教育振興協会、財団法人 日本青少年研究所

8. 学校や社会への参加意欲

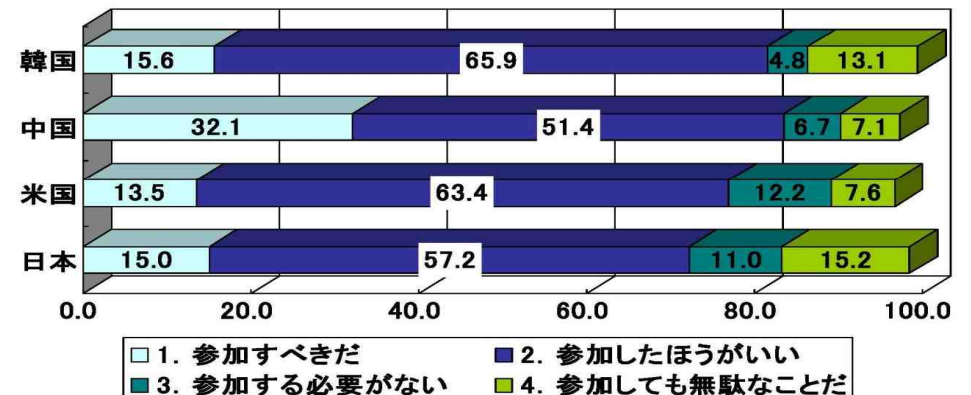
あなたは自分自身をどう思うか
(私個人の力では政府の決定に影響を与えられない)



(出典)「中学生・高校生の生活と意識－日本・アメリカ・中国・韓国の比較－(2009年2月)」
財団法人 一ツ橋文芸教育振興協会、財団法人 日本青少年研究所

8. 学校や社会への参加意欲

青少年が社会問題や政治問題に参加することについて、
あなたはどのように思いますか

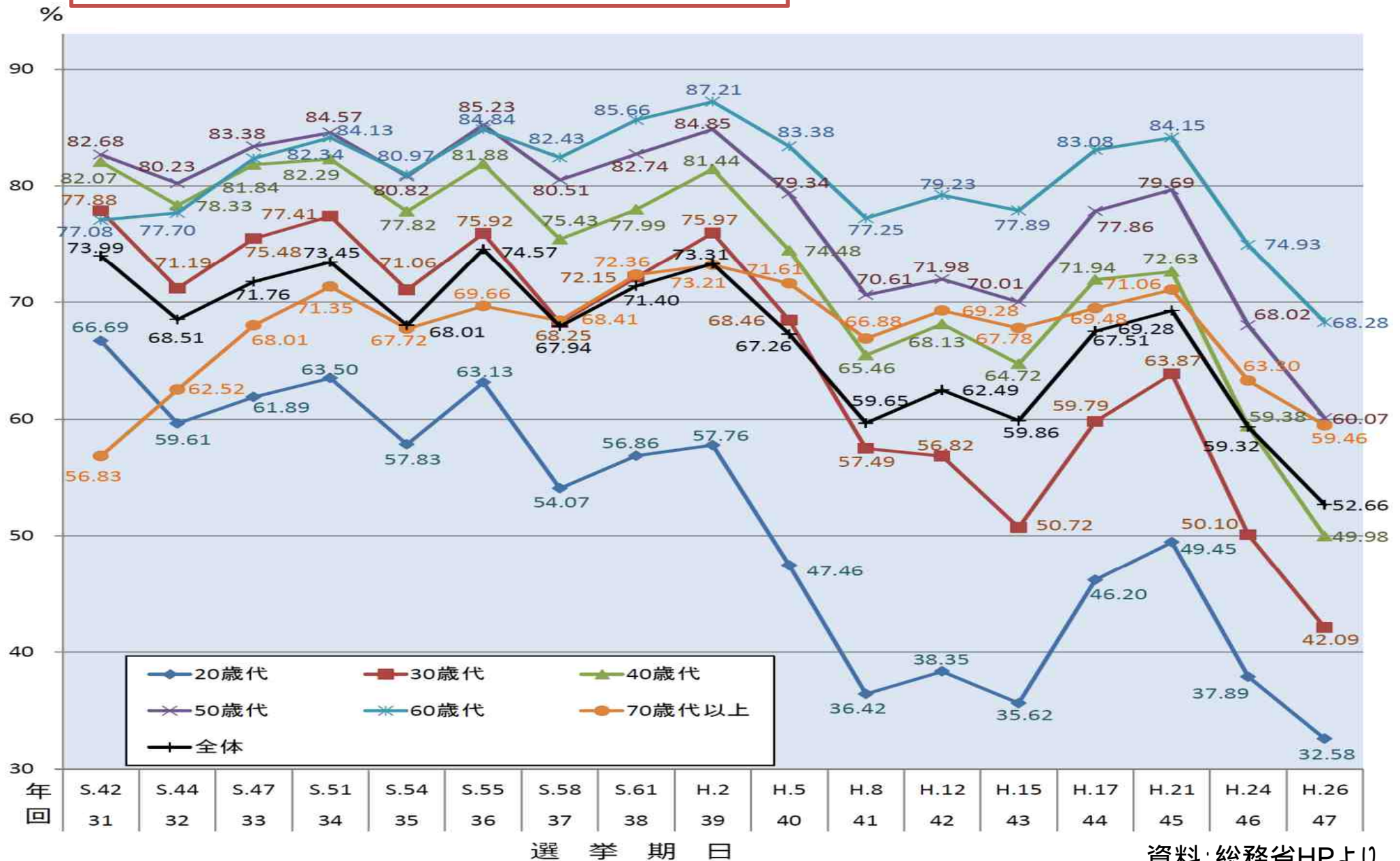


(出典)「中学生・高校生の生活と意識－日本・アメリカ・中国・韓国の比較－(2009年2月)」
財団法人 一ツ橋文芸教育振興協会、財団法人 日本青少年研究所

公民教育に関する現状について

社会参画の態度の現状について

衆議院議員選挙年齢別投票率の推移



若年層就労者の意識

若年層の就労者の多くは、働く上での権利・義務や働くことの意義を学ぶことが大切だと考えている。

◆労働教育に関する意識（各単一回答形式）

《働く上での権利・義務を、学校教育でもっと学びたかった》



《働くことの意義を、学校教育でもっと学びたかった》



《学校で労働に関することを学ぶことで、親子の会話のきっかけは増える》



■非常にそう思う ■ややそう思う ■どちらともいえない ■あまりそう思わない ■全くそう思わない

同意率	不同意率
68.7	10.7
57.8	15.7
48.5	19.6

◆仕事に対する意識（各単一回答形式）

《働く上での権利・義務を理解すれば、いまよりも安心して働ける》



《働く上での権利・義務を理解すれば、就業形態が多様化した社会でも安心して働ける》



■非常にそう思う ■ややそう思う ■どちらともいえない ■あまりそう思わない ■全くそう思わない

同意率	不同意率
71.8	7.7
64.3	10.8

連合（日本労働組合総連合会）「学校教育における『労働教育』に関する調査」
モバイルリサーチ（携帯電話によるインターネットリサーチ）により、2014年10月3日～10月8日の6日間において実施し、現在就業中の18歳～25歳の男女（アルバイト学生は除く）1,000名の有効サンプルを集計。（調査協力機関：ネットエイジア株式会社）

高等学校教育課程実施状況調査(H17)【政治・経済】

評価の観点別に見た分析

(通過率が設定通過率を上回る・下回る問題数)

評価の観点	問題数	上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
関心・意欲・態度	11	1<9.1%>	3<27.3%>	7<63.6%>
思考・判断	11	3<27.3%>	5<45.5%>	3<27.3%>
資料活用の技能・表現	19	2<10.5%>	2<10.5%>	15<78.9%>
知識・理解	14	4<28.6%>	1<7.1%>	9<64.3%>

(注) 複数の評価の観点にまたがる問題があるため、前記の表の問題合計数と異なる。

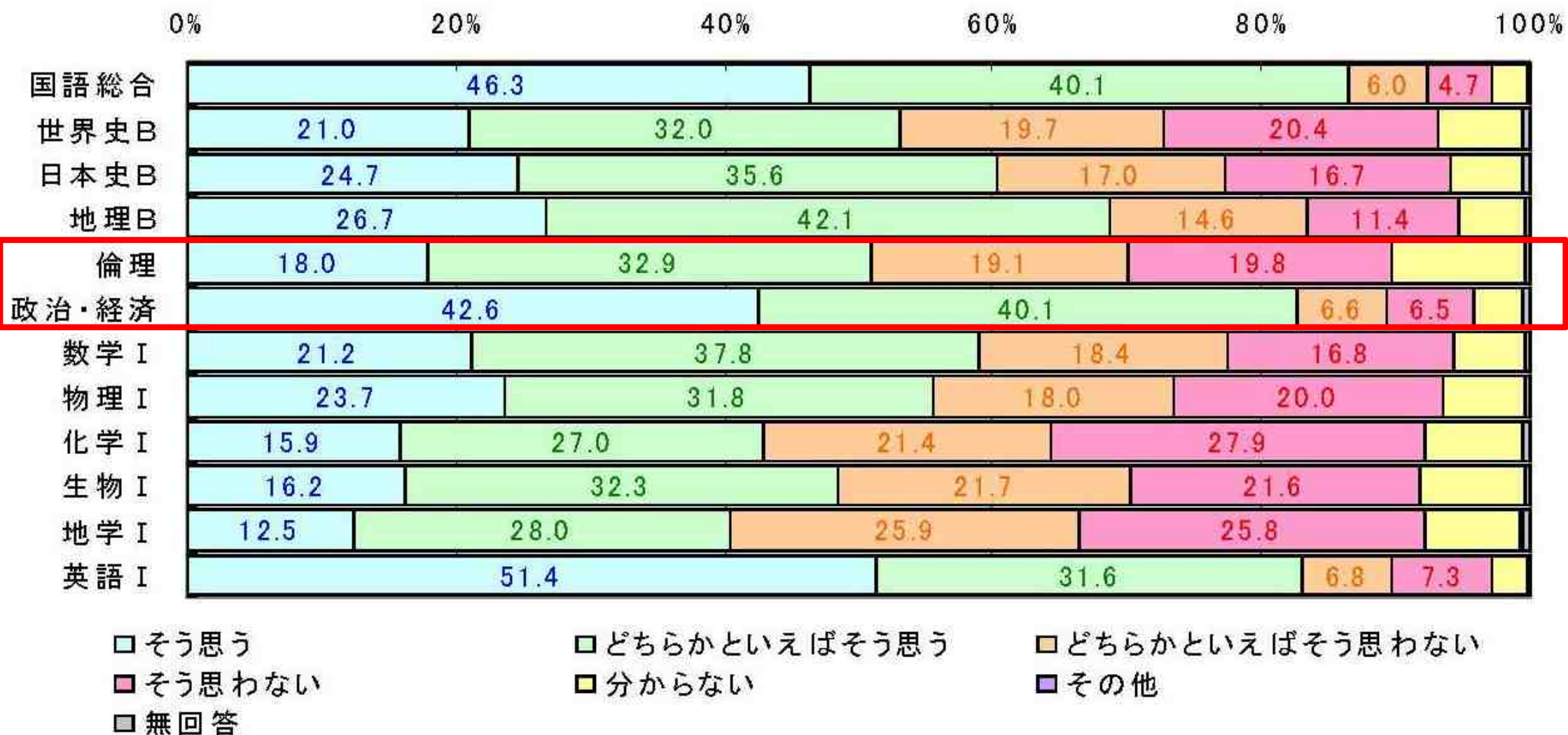
政治・経済に対する有用性等について

質問事項	肯定的な回答の割合	否定的な回答の割合
「政治・経済の勉強が好きだ」	39.9%<37.4%>	54.5%<56.3%>
「政治・経済の勉強は大切だ」	82.7%<82.2%>	13.1%<13.1%>
「政治・経済の勉強は、入学試験や就職試験に関係なくても大切だ」	77.2%<76.8%>	17.2%<17.3%>
「政治・経済を勉強すれば、私は、社会の一員としてよりよい社会を考えることができるようになる」	69.1%<65.0%>	21.8%<24.4%>

※< >内は平成15年度調査結果

公民教育に関する現状について

当該科目の勉強は大切だ



(出典)「平成17年度教育課程実施状況調査」
国立教育政策研究所

国際的な状況の分析について

諸外国の高等学校における公民教育の状況について

	イギリス(イングランド)	フランス	ドイツ	アメリカ
実施状況	「市民性(シティズンシップ)」を必修教科として設置	伝統的に哲学教育を重視	州によって異なる。学校種(ギムナジウム、基幹学校、実科学学校)によっても異なる	州によって異なる
対応する教科・科目・領域等の名称	ナショナル・カリキュラムにおいて、「市民性」を教科・領域として設定(なお、準拠しないアカデミー校やフリースクールが約半数)	「哲学」 「市民・法律・社会」	「政治」「歴史・政治」「労働」「社会科学」「ゲゼルシャフトスレーレ」など	州ごとにスタンダードを示し、「市民」「政治」を科目として設定(全ての州ではない)
各学年の時間数	学校が決定。「資格カリキュラム開発機関」は、週3-4時間の配当を推奨	「哲学」:専攻により異なるが、週3-8時間 「市民・法律・社会」:週0.5時間	ギムナジウムの場合、「政治」は6,8,10学年で各々週4-5時間	州、学校によって異なる
内容の特色(育成すべき資質・能力等)	討論や協働学習などのアクティブ・ラーニングを重視し、社会への主体的参画(体験活動)を促す全面主義のカリキュラムが推奨されている	「哲学」...哲学思想、哲学的思考・推論を学習し、論理的思考力の育成を目指す。内容は、哲学概念のほか文化・道德・宗教・政治などを含む 「市民・法律・社会」...テーマ学習(日本の総合に近い)	「政治教育の大綱準則」(2001年)で、主要理念として「省察力」「葛藤調整力」「寛容」「連帯」「行動力」を挙げ、民主主義社会の市民として必要な3つの能力(政治的判断能力、政治的行為能力、方法的能力)を提示	単に事象を知るだけでなく、ある事象を説明したり評価したりする「知的技能」、政府や政治への監視及び影響力の行使について学ぶ「参加技能」にも留意して、民主主義とは何か、市民としての行動とは何かといったことを考え、行動することが求められる

イングランドの教科書 “This is citizenship 2”

出典：「This is citizenship 2」HODDER EDUCATION

4.1 Political parties

A political party is an organised group of people with a leader and members. It stands for something – it has a set of views that the members agree with. Parties put up candidates at elections so that these people can be voted into positions of power, nationally or locally. People join a political party because they agree with what it stands for. They also want to help the party to win elections and put their ideas into practice.

Activity

You are going to create your own political party.

- 1 Work in groups of four or five. Imagine that you want to make the country a better place in which to live. What would you change? In your group, choose three things that you would like to change. You can get some ideas from this page, or you can come up with some of your own.

Clean up the environment

Ban smoking in public places

Make the health service better

Make sure everyone can get a job

Provide more social services to help people

Help poorer people in the rest of the world and refugees

Cut down crime

Build more houses for people who are homeless

Stop people claiming benefits they are not entitled to

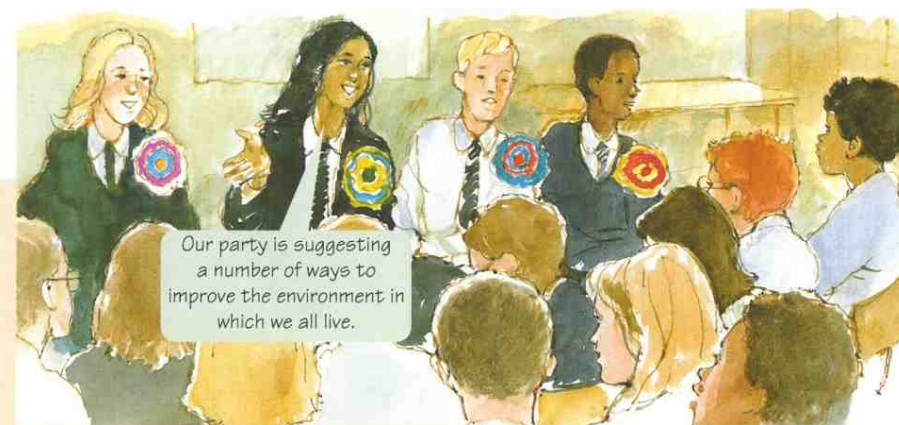
Bring in laws to protect animals

Improve schools

Get rid of traffic jams

- 2 Give your party a name and elect a leader.

CENTRAL GOVERNMENT AND PARLIAMENT



- 3 a) Decide what you want to do about the three issues you have chosen. These are your **aims**.
b) Decide how you are going to do it. These are your **policies**.
- 4 Draw a chart like the one on the right, and fill it in. (The completed row is just an example to help you.) When you have done this, you have written the party **manifesto**.

Name of our party:		
Our three issues	What we want to achieve (our aims)	How we can do it (our policies)
Get rid of traffic jams	Encourage more people to use public transport (trains and buses) instead of cars. Get lorries off the road by transporting more goods on the railway.	Charge people big taxes for driving cars in cities. Make public transport cheaper and quicker. Make rail transport of goods very cheap.

- 5 When you have agreed your policies, you have to convince other people that you are right. You have to plan your **campaign**.
a) Discuss how you can persuade other people to agree with your views.
b) Design campaign posters and put them up in the classroom.
c) Write a leaflet to give to people. You could use a computer to help you design and print it.
d) Write a three-minute speech for the leader of the party to give to the whole class. Invite some visitors to listen to the speeches. Your visitors can vote on which party was the most persuasive.

イギリス 中等教育課程前期
(おおむね中学1～3年相当)

イングランドの教科書 “This is citizenship 2” (second edition)

2.4 Do you get what you pay for?

Who pays for the services?



Who pays for the upkeep of your park?



Who pays the people to collect your rubbish?



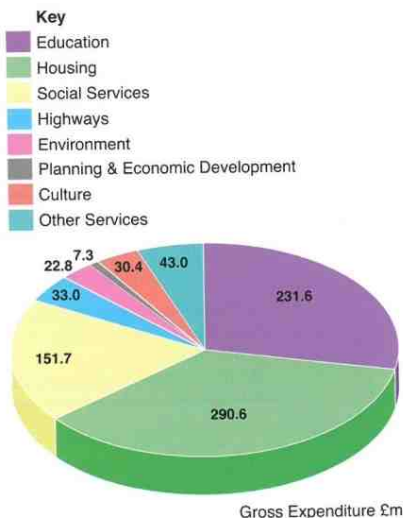
Who pays for your library?

The simple answer is – you do! Or rather your parents and guardians do. Every household (with a few exceptions) has to pay Council Tax. The tax is paid to the local council, which provides the services in the area.

How much tax is paid depends on the value of the house or flat that you live in. Each property is put into one of the property bands, which go from A to H. Band A is for smaller properties, and Band H is for very large ones. People who live in council houses and flats pay a proportion of their rent as Council Tax. People who live in rented houses and flats have to pay the Council Tax on the property as if they owned it. If you are the only person living in your property you get a 25 per cent discount off your Council Tax.

Councils also get some money straight from the government.

So how do councils spend their money? The pie chart on the right shows how one council breaks down its spending.



Activity

Using the pie chart:

- 1 What is the biggest proportion of money spent on?
- 2 What is the second largest amount spent on?

- 3 Why do you think these categories are so large?
- 4 What do all the categories tell you about why the council is important to people's lives?

- 5 Choose one category that you would spend a lot more money on. Explain how you would spend the extra money, and why.

Local communities and local government

Developing your survey skills

What do you know about the services in your local area?

Work in small groups and think about the services in the area where you live. Divide these up between you, and ask your relatives and neighbours what they think of each of the services you are researching.

How good do they think these services are? Ask your respondents to rate them using the following scale:

1 = terrible 2 = poor 3 = good 4 = very good 5 = excellent

Ask them for their views on how good the services are and put notes on what they say in the third column or on a separate piece of paper.

If you want to add some other services, write them at the bottom of the chart.

(The illustrations of council services at the beginning of this section, on pages 32–3, will help you.)

The swimming pool could be open earlier at the weekend.

Our rubbish doesn't get collected on the right day.

The nurseries are caring and not too expensive.

Services	Do you or your family/neighbours use this service?	How would you rate it on a scale of 1–5?	What have people said about this service?
Rubbish collection			
Schools			
Looking after elderly people			
• meals			
• care			
Leisure centres			
Parks			
Childcare/nurseries			
Library			
Noise control			
Recycling centres			
Special events such as firework displays or local fairs			
Car parks			

Activity

When you have done your survey, get together in groups and write up a report on what you've found. Highlight any areas where the service is very poor. Send your report to your local councillor.

イングランド 中等教育課程前期 (おおむね中学1～3年相当)

公民科目の今後の在り方について（検討素案）

課題

①積極的に社会参加する意欲が国際的に見て低い

現代社会の諸課題等についての理念や概念の理解、情報活用能力、自己の生き方等に結びつけて考えることに課題

課題解決的な学習が十分に行われていない

キャリア教育の中核となる時間の設定

資質・能力

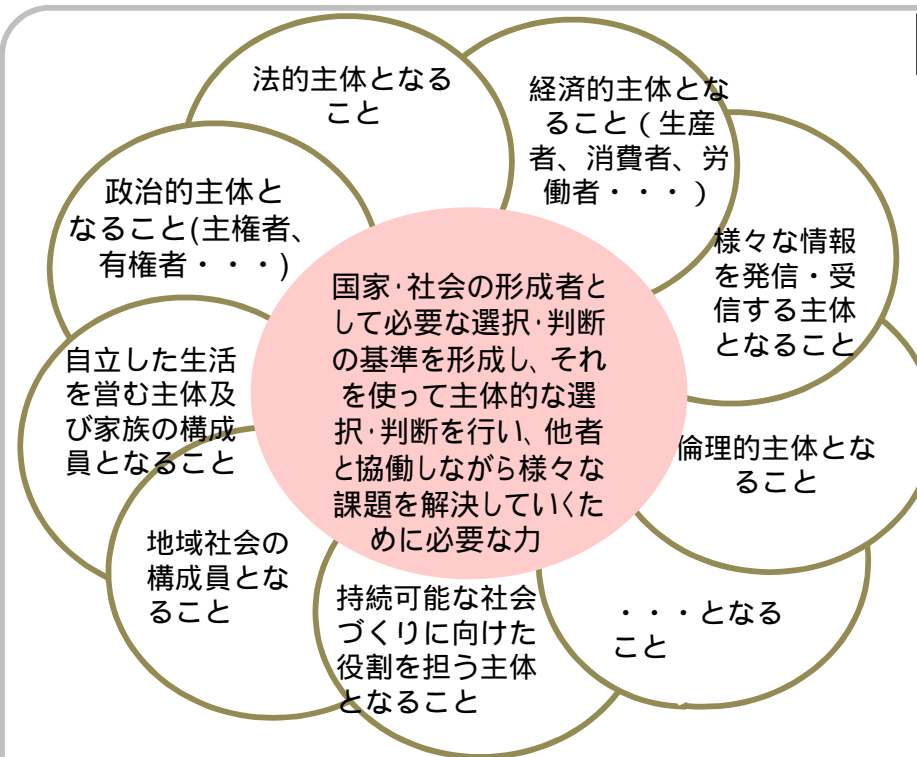
立場によって意見の異なる様々な課題について、その背景にある考え方を踏まえてよりよい課題解決の在り方を協働的に考察し、公正に判断、合意形成する力

様々な課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論を習得する力

公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度

現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚

（新科目のイメージ）



学習活動の例

討論、ディベート
模擬投票、模擬選挙
模擬裁判
外部の専門家の講演
新聞を題材にした学習
体験活動、インターンシップ
の準備と振り返り・・・

関係する専門家・機関

弁護士
選挙管理委員会
消費者センター
報道機関
留学生
企業 経済団体
起業家
NPO、NGO・・・

「公共」の扉（なぜ「公共」を学ぶのか）＜仮＞

社会的・職業的な自立や社会参画に向けた意識 アイデンティティー 自己実現・・・

様々な主体としての私たちの生き方＜仮＞

社会保障（年金、健康保険等） 情報 消費行動 契約 財政と納税 雇用 政治参加（選挙等） 家族（制度的側面など） 自由・権利 責任・義務・・・

持続可能な社会づくりの主体としての私たち＜仮＞

文化と宗教の多様性 国際平和 社会的な課題発見・解決に向けた探究・・・

新科目の構成においては、現行の関連する科目だけでなく、各教科・科目等との連携・役割分担を念頭に置きながら検討。具体的なスキル・リテラシーとしてどのような力を、どのような学習活動を通じて育むかという議論も必要。

<参考>

・学校における道德教育は、...人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、各教科の属する科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、適切な指導を行わなければならない。（「高等学校学習指導要領総則第1款 教育課程編成の一般方針」）

学校外部の専門性を有する人材の活用

学校外部の専門性を有する人材（例えば、弁護士、税理士、社会保険労務士や、選挙管理委員会などの関係行政部局の担当者、消費生活相談員など）や地域の大人、大学生などの積極的な活用を図る手立ての検討（土曜学習の活用も含む）

授業で活用可能な教材等の充実

文部科学省及び各省庁（金融庁、消費者庁、法務省等）、都道府県教育センター等や各種団体が保有する教材、事例集などコンテンツの共有の在り方の検討

研究開発課題

社会生活及び職業生活に参加し、市民としての権利を行使し充実した生活を可能にする力（社会人基礎力）の形成を目標とし、市民社会に積極的に参加するために必要な情報獲得と運用能力及び、労働の役割と労働が権利であると同時に義務であることの知識と自覚を形成する。

研究の概要

高校生に自立と共生の能力を兼ね備えた社会人の基礎となる力を培うため、教科「公共」を創設し、道徳教育、就業体験を核にしたキャリア教育、その他今日的な課題に対応した教育を柱にした教育課程の研究開発を行う。

具体的には、

社会性とキャリアについての基礎的な知識と技術の習得

インターンシップなどの体験活動

班別学習や発表を通したコミュニケーション及びプレゼンテーション能力の育成

舞子 S P T（生徒・保護者・教員の懇談会）との連携 等

研究開発の成果と課題

（研究開発の成果例）

公共の授業を通して、社会を知る機会を得たと思っている生徒や、働く人たちが、何に「働く喜びややりがい」を感じているかを知ることができたと考えている生徒、将来役立つ技能が身についたと感じている生徒の割合が7割を超えている（生徒アンケート結果より）。

（今後の課題例）

・育成した能力が「学校から社会への移行」にあたって有効かどうかの検証が不十分であった。

・公共の授業形式について、知識の学習と技能形成との間の関連を明確にし、いっそう系統性を持たせる必要がある。

【参考】シティズンシップ教育等の取組事例

東京都品川区

区内の全ての小・中学校で「市民科」を設置し実施
「基本的生活習慣と規範意識」「よりよい生活への態度育成」「社会的行動力の基礎」「市民意識の醸成と将来の生き方」を発達段階ごとの目標として学習

(取組の背景)

規範意識や社会モラルの低下、奉仕の心や公共心の欠如など、現在の社会が抱える課題の改善を目指す。

京都府八幡市

平成22年度まで文部科学省研究開発学校の指定を受けて実施した取組

新設教科「やわた市民の時間」(市内全ての小・中学校で設置)でのコア・プログラムと、従来の教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間と関連付けて行うサブ・プログラムにより実施
「ルール・マナー」「民主主義」「経済・キャリア」「ユニバーサルデザイン」の4つの観点から学習

(取組の背景)

八幡市が目指す「豊かな市民力」「しなやかな身体力」を育成する中で、学校や学級への帰属意識の低下、児童・生徒会活動の停滞、地域社会への参加の減少など、将来の社会を担うべき子どもの育成の観点から様々な課題が見られる。

神奈川県

全県立高校で「シティズンシップ教育」を実施
公民科、家庭科、総合的な学習の時間、特別活動などにおいて実施
「政治参加教育」「司法参加教育」「消費者教育」「道徳教育」の4本柱で実践

(取組の背景)

社会的・経済的な自立についての課題が指摘されている、若者の投票率の低下、政治や社会、経済活動に対する知識が十分でない、規範意識やマナーの低下傾向がうかがえるなど。

お茶の水女子大学付属小学校

平成22年度まで文部科学省研究開発学校の指定を受けて実施した取組

「公共性リテラシー」を全学習分野(ことば、市民、算数、自然、音楽、アート、生活文化、からだ、なかま)において育成

(取組の背景)

他者との異質性を認め、他者を思いやることや、社会の構成員として責任ある行動をとることができる子どもになってほしい。しかし、人や物事と関わろうとせず、身勝手な行動に走ったり、心や体を閉ざしたりする。また、他者の声を受けとめることができない、子ども同士の相互交渉力や自治力も弱い。

指導方法の変革を支援する方策について

シティズンシップを発揮するために必要な能力の全体像

意識

社会の中で、他者と協働し能動的に関わりを持つために必要な意識

自分自身に関する意識
向上心、探究心、学習意欲、労働意欲等
他者との関わりに関する意識
人権・尊厳の尊重、多様性・多文化の尊重、異質な他者に対する敬意と寛容、相互扶助意識、ボランティア精神等
社会への参画に関する意識
法令・規範の遵守、政治への参画、社会に関与し貢献しようとする意識、環境との共生や持続的な発展を考える意識等

知識

公的・社会的な分野での活動に必要な知識

教養・文化・歴史、思想・哲学、社会的規範、ユニバーサルデザイン、環境問題、南北問題、まちづくり、NPO・NGO 等

政治分野での活動に必要な知識

わが国の民主主義の仕組み(国民主権、代議制、三権分立、選挙制度、政党など)、国民の権利・義務、基本的な法律制度、政府の仕組み(内閣、府省、財政など)、住民運動、住民参加、情報公開、戦争と平和、国際紛争、海外の政治制度等

経済分野での活動に必要な知識

市場原理、景気、資本主義の仕組み、ボーダーレス経済、消費者の権利、労働者の権利、多様な職業の存在と内容、税制、社会保障制度(年金、保険等)、金融・投資・財務、家計、医療・健康(薬物や食を含む)、悪徳商法対応、各種ハラスメント、犯罪・違法行為、CSR(企業の社会的責任) 等

スキル

多様な価値観・属性で構成される社会で、自らを活かし、ともに社会に寄与するために必要なスキル

自己・他者・社会の状態や関係性を客観的・批判的に認識・理解するためのスキル
自分のことを客観的に認識する力、他者のことを理解する力、ものごとを俯瞰的にとらえ全体を把握する力、ものごとを批判的に見る力等
情報や知識を効果的に収集し、正しく理解・判断するためのスキル
大量の情報の中から必要なものを収集し、効果的な分析を行う力、ICT・メディアリテラシー、価値判断力、論理的思考力、課題を設定する力、計画・構想力等
他者とともに社会の中で、自分の意見を表明し、他人の意見を聞き、意思決定し、実行するためのスキル
プレゼンテーション力、ヒアリング力、ディベート、リーダーシップ、フォロワーシップ(多様な考え方や価値観の中で、批判的な目でチェック機能を果たしたり、リーダーの意を汲んで行動したり、適切な役割を果たす力)、異なる意見を最終的には集約する力、交渉力、マネジメント、紛争を解決する力、リスクマネジメント等

高等学校地歴・公民科科目の在り方に関する特別チームにおける検討事項

1．高等学校の地理歴史科、公民科に置く新科目の内容の検討について

(1) 「歴史総合（仮称）」

当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか

歴史の転換等を捉えた学習の在り方

- ・歴史の転換期の軸

- ・学習対象となる時代

日本と世界の動きの関連付け

(2) 「地理総合（仮称）」

当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか

地理教育に求められる今日的要請への対応

(3) 「公共（仮称）」

当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか

- ・様々な課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論

公民教育に求められる今日的課題への対応

2．高等学校地理歴史科、公民科に置く科目間の関係の整理（高等学校における各科目の標準単位数を含む）について

(1) 「歴史総合」と「地理総合」の地理歴史科としてのまとめ

(2) 新設する科目（「歴史総合」「地理総合」「公共」）について、高校生として共通に求められる資質・能力を確実に育む共通必修科目の設計と生徒の興味・関心や進路に応じた選択科目の設計（高大接続の観点を含む）

3．小・中学校社会科等と高等学校地理歴史科、公民科との内容の系統性について

(1) 小学校社会科・中学校社会科の各分野（地理的分野、歴史的分野、公民的分野）と高等学校の関係教科・科目の内容の系統性

4．その他

(1) 適切な指導がなされるための要件（周知・広報、研修等）

「歴史総合(仮称)」の内容構成の考え方(検討素案)

当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等(事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など)を育むか〔歴史の考察を促す概念の例:「継続と変化」「原因と結果」「類似と差異」等〕

歴史の転換等を捉えた学習の在り方〔転換期の軸の例:近代化～大衆化～グローバル化等、
学習対象となる時代〕

日本と世界の動きの関連付け〔世界における日本の位置付け〕

「地理総合(仮称)」との関係 〔グローバルな時・空間認識の育成、地理歴史科としてのまとめ〕

高校生として共通に求められる資質・能力を確実に育む共通必修科目の設計と生徒の興味・関心や進路に応じた選択科目の設計(高大接続の観点を含む)

小・中学校社会科(歴史的分野)の学習との関係

その他、適切な指導がなされるための要件 〔周知・広報、研修等〕

【参考】 現行高等学校学習指導要領解説における近現代の始まり

	近 代	現 代
世界史	18世紀後半(諸革命～)	19世紀後期(帝国主義と社会の変容～)
日本史	19世紀後半(開国前後～)	20世紀半ば(第2次世界大戦後～)

高等学校 歴史科目の今後の在り方について（検討素案）

現行歴史系A科目

世界史A

- 1 世界史へのいざない
- 2 世界の一体化と日本
- 3 地球社会と日本

関連付け

日本史A

- 1 私たちの時代と歴史
- 2 近代の日本と世界
- 3 現代の日本と世界

課 題

世界史や日本史の学習は大切だと考える生徒は増加。一方、近現代の学習の定着状況が、他の指導内容に比べて低い傾向。

世界史か日本史かの二者択一ではなく、グローバルな視野で現代世界とその中での日本の過去と現在、未来を考える歴史認識を培うことが必要との指摘。

調べたことを発表させる活動や課題解決的な学習を取り入れた授業等が十分に行われていない。

資質・能力

自国のこと、グローバルなことを、横断的・相互的にとらえる力

現代社会の形成過程を理解し、その諸課題を考察する力

世界史必修から、我が国の伝統と向かい合い、今を知るための歴史科目の新設へ

持続可能な社会作りに参画する態度

国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚

新科目のイメージ

自国のこと、グローバルなことが影響しあったり、つながったりする歴史の諸相を学ぶ科目「歴史総合」（仮称）

日本の動向と世界の動きを関連付けて捉える。
現代的な諸課題を歴史的に考察するため、近現代における、歴史の転換等を捉えた学習を中心とする

歴史の転換の様子を捉える「継続と変化」、因果関係を捉える「原因と結果」、特色を捉える「類似と差異」などの、歴史の考察を促す概念を重視する

歴史の中に「問い」を見出し、資料に基づいて考察し、互いの考えを交流するなど、歴史の学び方を身に付ける

< 参考 >

現行中学校社会科の歴史的分野の学習では、我が国の歴史の大きな流れの理解をねらいとしている。
（各時代の特色を捉える学習他）

「地理総合(仮称)」の内容構成の考え方(検討素案)

当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等(事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など)を育むか

〔現行学習指導要領においては、「地理的な見方や考え方」を提示〕

地理教育に求められる今日的要請への対応〔例：GIS、ESD、グローバル化、防災等〕

「歴史総合(仮称)」との関係〔グローバルな時・空間認識の育成，地理歴史科としてのまとまり〕

高校生として共通に求められる資質・能力を確実に育む共通必修科目の設計と生徒の興味・関心や進路に応じた選択科目の設計(高大接続の観点を含む)

小・中学校社会科(地理的分野)の学習との関係

その他，適切な指導がなされるための要件〔周知・広報、研修等〕

高等学校 地理科目の今後の在り方について（検討素案）

現行地理A科目

課 題

資質・能力

新科目のイメージ

地理A

(1)現代世界の
特色と諸課題の
地理的考察

(2)生活圏の諸課題の
地理的考察

①地理は選択必修で、
選択者も世界史、日本
史に比べて少ないこと
から、最低限の地理的
技能をもたず高校を卒
業する者が多い。

地球環境の危機や防
災に関する教育の必要
性、地理的思考力や地
理情報システム(GIS)な
どを利活用できるスキ
ルの育成等が重要であ
るとの指摘。

観察や調査・見学、体
験を取り入れた授業等
が十分に行われていな
い。

地理的な技能
「実践的な社会的スキル
としてのGIS活用」

地理的知識と地理的理解
「地球規模(グローバル)の
自然システム、
社会・経済システム
の知識と理解」

新科目を通じて育成
する資質・能力

地理的な見方や考え方
「空間概念を捉える力」

態度と価値観
「地域、国家的及び国際的な
課題解決を模索する
献身的努力」

(「ルツェルン宣言における
『持続可能な開発を実行
する地理的能力』による」)

持続可能な社会づくりに必須となる
地球規模の諸課題や、地域課題を
解決する力を育む科目「地理総合」
(仮称)

地図や地理情報システムなどの汎用的な
地理的技能の育成

位置と分布、場所、地域などの概念を捉え
る地理的な見方や考え方の育成

グローバルな視点からの地域理解と課題
解決的な学習の展開

持続可能な社会づくりに関わる資質・能力
を育み、以降の地理学習等の基盤を形成

< 参考 >

- ・ 中学校の地理的分野において充実した地誌学習により獲得した知識等を活用し、国内外の諸課題等を主題的に扱う。
- ・ 本科目履修後の地理歴史科の科目や他教科において活用できる、GISをはじめとする地理的な技能や、世界のグローバル化、持続可能な社会づくりといった考え方を身に付けさせる。

【参考】 現行学習指導要領解説に示された「地理的な見方や考え方」

どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか、諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ、地理的事象として見いだすこと。

また、そうした地理的事象にはどのような空間的な規則性や傾向性がみられるのか、地理的事象を距離や空間的な配置に留意してとらえること。

そうした地理的事象がなぜそこでそのようにみられるのか、また、なぜそのように分布したり移り変わったりするのか、地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して追究し、とらえること。

そうした地理的事象は、そこでしかみられないのか、他の地域にもみられるのか、諸地域を比較し関連付けて、地域的特色を一般的共通性と地方的特殊性の視点から追究し、とらえること。

そうした地理的事象がみられるところは、どのようなより大きな地域に属し含まれているのか、逆にどのようなより小さな地域から構成されているのか、大小様々な地域が部分と全体とを構成する関係で重層的になっていることを踏まえて地域的特色をとらえ、考えること。

そのような地理的事象はその地域でいつごろからみられたのか、これから先もみられるのか、地域の変容をとらえ、地域の課題や将来像について考えること。

【参考】 地理教育国際憲章で示された「地理学研究の中心的概念」

- ・ 1992年に、組織内の地理教育委員会（CGE）で起草され、国際地理学連合（IGU）として制定された地理教育振興のためのガイドライン。
- ・ この中で、地理学研究の中心的概念を「位置と分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」と規定。

「公共(仮称)」の内容構成の考え方(検討素案)

当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等(事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など)を育むか

〔例:様々な課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論を、古今東西の知的蓄積を通して習得する力〕

公民教育に求められる今日的課題への対応

〔例:情報、防災、自立した生活を営む主体、社会保障、契約、財政と税、雇用・労働、インターンシップの準備と振り返り、政治参加、法、金融等〕

高校生として共通に求められる資質・能力を確実に育む共通必修科目の設計と生徒の興味・関心や進路に応じた選択科目の設計(高大接続の観点を含む)

小・中学校社会科(公民的分野)の学習との関係

その他、適切な指導がなされるための要件〔周知・広報、研修等〕

高等学校学習指導要領(平成21年3月) 現代社会(抄)

現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させる

高等学校 公民科目の今後の在り方について（検討素案）

課題

①積極的に社会参加する意欲が国際的に見て低い

現代社会の諸課題等についての理論や概念の理解、情報活用能力、自己の生き方等に結びつけて考えることに課題

課題解決的な学習が十分に行われていない

キャリア教育の中核となる時間の設定

資質・能力

立場や文化によって意見の異なる様々な課題について、その背景にある考え方を踏まえてよりよい課題解決の在り方を協働的に考察し、公正に判断、合意形成する力
課題解決のための論理的な思考

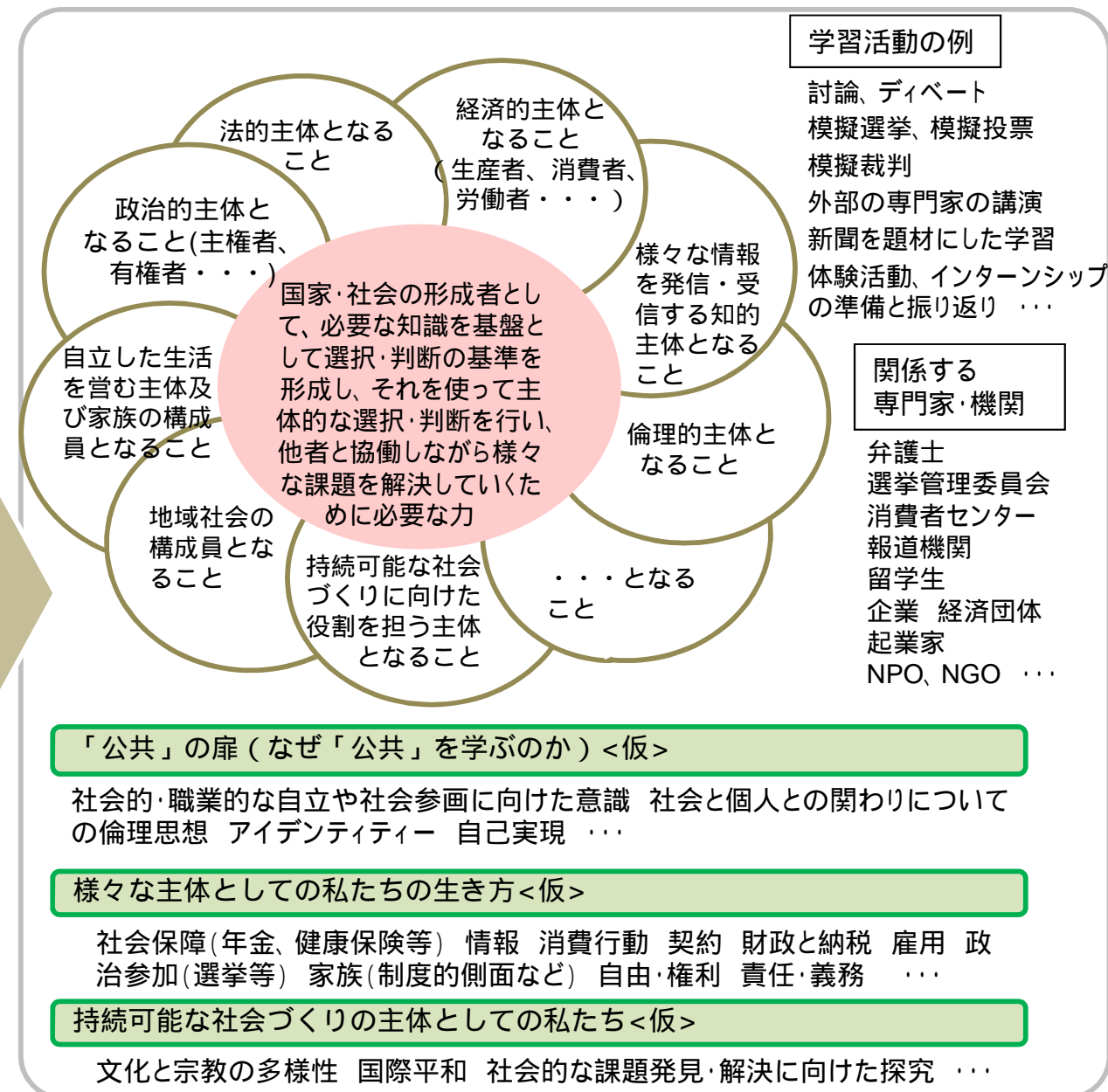
様々な課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論を、古今東西の知的蓄積を通して習得する力

新科目を通じて育成する資質・能力

公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度

現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚

（新科目「公共」（仮称）のイメージ）



新科目の構成においては、現行の関連する科目だけでなく、各教科・科目等との連携・役割分担を念頭に置きながら検討。具体的なスキル・リテラシーとしてどのような力を、どのような学習活動を通じて育むかという議論も必要。

<参考>

・学校における道德教育は、…人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、各教科の属する科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、適切な指導を行わなければならない。（「高等学校学習指導要領総則第1款 教育課程編成の一般方針」）